別添資料

資料１：第一次調査票１～３及び対象者情報記入票
資料２：第一次調査における調査票１の分析関係資料
資料３：ＲＬ評価観点表関係資料
資料４：第二次調査票１～３及び対象者情報記入票
資料５：第二次調査における対象者情報まとめ
資料６：第二次調査における調査票１の分析結果
資料７：第二次調査における調査票２の分析結果
資料８：第二次調査における調査票３の分析結果

付録（評価ツール「評価の手引（案)」)

付録１：「評価ツール１」(調査票１（ＳＣＴ）及び「評価の着眼点」)
付録２：「評価ツール２」(調査票２（質問紙）及び「評価尺度の説明」)
付録３：「評価ツール３」(調査票３（ＲＬ）及び「ロールレタリング評価シート」)

別添資料１

第一次調査票１～３及び
対象者情報記入票

整理番号

調査票１

次のページには，書きかけの文章やことばが書いてあります。（同じ言葉もたくさん並んでいます。）その文章やことばを読んで，思いついたことを書いて文章を完成させてください。

思いついたことを，そのまま自由に書いてください。どのように書いても正解や間違いはありません。また，順番にやる必要はありません。
制限時間の中で，できるだけたくさんの文章を作ってください。

ただし，一度作った文章と同じ文章を作ってはいけません。

（例）

1　空は＿きれいだ＿＿＿＿＿＿＿＿

（制限時間　１５分）

「始め」の合図があるまで，待ってください。

「やめ」の合図があったら，回答をやめてください。

1　被害者は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2　被害者の＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
3　被害者に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
4　被害者を＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
5　被害者から＿＿＿＿＿＿＿＿＿
6　今回の事件＿＿＿＿＿＿＿＿＿
7　被害者は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
8　被害者の＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
9　被害者に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
10　被害者を＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
11　被害者から＿＿＿＿＿＿＿＿＿
12　今回の事件＿＿＿＿＿＿＿＿＿
13　被害者は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
14　被害者の＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
15　被害者に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
16　被害者を＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
17　被害者から＿＿＿＿＿＿＿＿＿
18　今回の事件＿＿＿＿＿＿＿＿＿
19　被害者は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
20　被害者の＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
21　被害者に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

22 被害者を________

23 被害者から________

24 今回の事件________

25 被害者は________

26 被害者の________

27 被害者に________

28 被害者を________

29 被害者から________

30 今回の事件________

31 被害者は________

32 被害者の________

33 被害者に________

34 被害者を________

35 被害者から________

36 今回の事件________

37 被害者は________

38 被害者の________

39 被害者に________

40 被害者を________

41 被害者から________

42 今回の事件________

43 被害者は________

44 被害者の________

45 被害者に________

46 被害者を________

47 被害者から________

48 今回の事件________

49 被害者は________

50 被害者の________

51 被害者に________

52 被害者を________

53 被害者から________

54 今回の事件________

55 被害者は________

56 被害者の________

57 被害者に________

58 被害者を________

59 被害者から________

60 今回の事件________

整理番号

調査票２

これから，あなたに質問に答えていただきます。

質問の内容は，今回のあなたの事件や，その事件の被害者やその家族の方々などについてです。

質問に対する回答は，あなたにとって当てはまるものを選ぶ形式です。あなたにとって最も当てはまるものに，○をつけてください。

あなたが答えたアンケートの内容をもとに，あなたに対する教育に役立てることはありますが，あなたの答えを他の受刑者に見せたり，あなたにとって不利益なことをすることはありません。

1　次の文章について，あなたはどのように思いますか。それぞれ，「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「全くそう思わない」の中で，当てはまるものに○をつけてください。

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
例	仕事よりも家庭を優先するべきだ。	○					
1	今回の自分の事件は，被害者に原因があった。						
2	被害者やその家族に被害弁償をして経済的に困らないようにさせるだけでも，被害者側への償いになるはずだ。						
3	今回の自分の事件は，いろいろな事情で仕方なくやってしまった。						
4	加害者と被害者側との間の問題に，被害者支援団体など他人が被害者に味方して支援するのは，納得がいかない。						
5	今回の自分の事件で，相手は大して傷ついていない。						
6	被害者やその家族は，刑が決まってからも長々と加害者の責任を追及するのはおかしい。						
7	今回の事件で，自分の大切な人を守ることができて，良かった。						

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
8	今回の事件のことを，一生忘れてはいけないと考えている。						
9	今回の事件で，自分に与えられた刑は重過ぎる。						
10	今回の自分の事件は，被害者も責められて当たり前である。						
11	刑務所に入って罪を償っているので，被害者への謝罪や被害弁償の必要はない。						
12	今回の自分の事件は，自分の意志で積極的にやったのではない。						
13	被害者やその家族が被害者支援団体に頼るといつまでも事件のことにこだわり，かえって被害から回復しない。						
14	今回の自分の事件の被害者やその家族は，大げさすぎる。						
15	被害者やその家族が裁判で気持ちを訴えることで，刑が重くなることがあるとしたなら，納得がいかない。						
16	被害者の痛みや苦しみよりも，仲間や先輩との関係の方が，自分にとって大切だった。						

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
17	今回の事件とこれからずっと向き合わなければいけないと考えている。						
18	今回の自分の事件で，自分よりももっと悪い人はいるのに，自分ばかり責められるのは納得がいかない。						
19	今回の自分の事件は，自分こそ本当の被害者だ。						
20	いくら謝罪や被害弁償をしても，被害者側から許しを得るのは難しいと思うが，それでも，謝罪や被害弁償はきちんとしたい。						
21	今回の自分の事件は，様々なことがあって結果的に起こしてしまった。						
22	裁判などにおいて，被害者の権利は既に認められすぎており，そのことでむしろ加害者の権利を侵害している。						
23	今回の事件の結果は，仲間の暴力によるもので，自分の暴力の結果ではない。						
24	裁判が終わってから，被害者やその家族の気持ちを知ってもしょうがない。						
25	自分が今回の事件をしていないと，仲間や大切な人から見捨てられていた。						

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
26	今回の自分の事件のことで実際に刑罰を受けているのだから，それ以上の責任はないはずだ。						
27	今回の自分の事件で，自分のことを悪いと言う人も裏では悪いことをしているはずで，自分のことだけを悪いと言うのはおかしい。						
28	今回の事件は，被害者が悪いから起こった。						
29	謝罪や被害弁償が不十分なままでも，年月が経つうちに被害者側は事件の記憶が薄れ，立ち直ることができるだろう。						
30	今回の自分の事件は，自分だけが悪いわけではない。						
31	刑に服して責任は果たしたのだから，加害者が被害者のことを考える必要はなく，被害者の視点を取り入れた教育を行う意味はない。						
32	今回の事件は，始末されて当然の者を始末しただけである。						
33	被害者やその家族の気持ちは，新聞，雑誌，取調べ，裁判などを通して，既に十分知ったつもりだ。						

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
34	自分の仲間や友達などを守るために，今回の事件が起きた。						
35	今回の事件については，もう済んだことなのだから，何度も蒸し返すことはしないでほしい。						
36	今回の自分の事件で，裁判官や検察官は，被害者の悪いところには触れないで，自分の悪いところばかり非難して不公平だ。						
37	今回の自分の事件で，本当に犠牲になっているのは，自分だ。						
38	刑罰と謝罪や被害弁償とは別のことなので，被害者から許しを得るまで罪を背負って謝罪し，被害弁償するのは当然だ。						
39	今回の自分の事件の責任はすべて自分にある。						
40	被害者の視点を取り入れた教育を受けている間に，事件，被害，被害者やその家族について改めてよく考えて，出所後にどう謝罪して，被害弁償するかをはっきりさせたい。						

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
41	今回の自分の事件で，被害者やその家族を傷つけてしまった。						
42	被害者やその家族が，加害者を憎み，怒り，許さない気持ちを持ち続けるならば，加害者は謝罪し，被害弁償する気がなくなってしまう。						
43	他人を傷つけることになっても，仲間や大切な人のために行動しないといけない。						
44	今回の事件のことは，自分と被害者の問題だから，被害者の家族の考えや気持ちは関係ない。						
45	世の中にはもっと悪い人はいるのに，今回の事件で自分がこれほど責められるのはおかしい。						
46	今回の自分の事件の結果によって生じた被害は，被害者にとって当然の罰である。						
47	被害者やその家族が来るなと言うなら，謝罪に行く必要はない。						
48	今回の自分の事件の原因は，自分以外のところにある。						

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
49	今回の自分の事件は，自分がやった行為に比べて，被害が不自然に大きい。						
50	被害者やその家族の心や体の傷は，時間が経てばましになる。						
51	仲間や先輩のためなら，他人を傷つけても仕方がない。						
52	事情も知らずに今回の事件のことで自分のことばかりを責める人たちは，間違っている。						
53	今回の自分の事件は，自分よりもむしろ被害者の方が責められるべきである。						
54	今回の自分の事件での行動をやっていなかったら，自分が危なかった。						
55	今回の自分の事件で，被害者をとても傷つけてしまった。						
56	先輩や仲間を助けることになったとしても，人を傷つけることは許されない。						
57	今回の自分の事件で，自分のことを悪いと言われると，あなただって悪いことをしたことがあるでしょうと言いたくなる。						

2　あなたは，次の文章のような状態になることが，どのくらいありますか。それぞれ，「いつもある」「よくある」「時々ある」「あまりない」「全くない」で答えてください。

		いつもある	よくある	時々ある	あまりない	全くない
例	雨が降っていると，悲しい気分になる。				○	
1	こんな犯罪をやった自分が生きていることを後ろめたく感じる。					
2	被害者やその家族のことを考えると自分はこれから幸せをつかんではいけないと思う。					
3	被害者やその家族に対して，自分がこのように生きていることについて申し訳なく思う。					
4	被害者やその家族より自分がいい思いをしているようですまないと感じる。					
5	自分がこうして生活できていることは何か間違っていていけないことのように思える。					
6	被害者やその家族より自分の方が得をしているようで心苦しい。					
7	事件のことが胸にひっかかっていて，物事に積極的に取り組めない。					

3　被害者やその家族に謝りたいとか償いたいと思う際の理由として，これから挙げる理由をそれぞれどのように思いますか。それぞれ，「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「全くそう思わない」で答えてください。

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
例	自分の気持ちをきちんと伝えたいから。		○				
1	自分がやってしまったことの大変さが分かるから。						
2	自分や身近な人への風当たりをやわらげるため。						
3	自分に対する印象が良くなるから。						
4	仮釈放など，自分の刑を軽くしてもらうため。						
5	今回のような事件を犯した自分の気持ちがおさまらないから。						
6	また同じような事件をしてしまわないため。						
7	やるべきことをやって，早くこの事件を終わりにするため。						
8	被害者やその家族からのいやがらせをされないため。						
9	今の自分にせめてできることなので。						

		非常にそう思う	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
10	自分がやってしまったことに責任をとる必要があるから。						
11	人として当然のことだから。						
12	周りからあれこれ言われないため。						

質問は次のページに続きます。

4

(1)これまでにあなたが被害者やその家族に対して行った謝罪や被害弁償についてうかがいます。それぞれ当てはまる記号（ア～ウ，またはア～エ）に○をつけてください。

A　被害者やその家族に謝罪の気持ちは伝えましたか。

ア　被害者やその家族に直接会って伝えた。

イ　被害者やその家族に直接会っていないが，手紙や電話で伝えた。

ウ　自分が伝えてはいないが，親や弁護士などの代理の人に伝えてもらった。

エ　伝えていない。

B　被害者やその家族に対する金銭の支払い（賠償金，示談金など名目は問いません）はしましたか。

ア　支払う必要がある金額はすべて支払った。

イ　支払う必要がある金額の一部を支払った。

ウ　全く支払っていない。

質問は次のページに続きます。

（2）今，あなたが被害者やその家族に謝罪や被害弁償を行う気持ちはどのくらいありますか。「全くない」，「ない」，「少しある」，「ある」，「非常にある」の中で，あなたの今の気持ちに当てはまるものを選んでください。

	全くない	ない	少しある	ある	非常にある
回答の記入例（「少しある」と答えたい場合）			○		
今，あなたが被害者やその家族に謝罪や被害弁償を行う気持ち					

質問は次のページに続きます。

（3）今後あなたが被害者やその家族に謝罪や被害弁償を行う際に，次のような状況になったとき，謝罪や被害弁償を続けていく自信や覚悟がどの程度ありますか。それぞれ「全くない」，「ない」，「少しある」，「ある」，「非常にある」の中で，あなたに当てはまるものを選んでください。

		全くない	ない	少しある	ある	非常にある
例	自分が重い病気になり，多額の金銭が必要となったとき			○		
1	謝罪に行ったものの，許してくれなかったとき。					
2	手紙で謝罪したのに，手紙が返送されてきたとき。					
3	要求された損害賠償額が多額で，一生かけても払えそうにないとき。					
4	失業するなどして，被害弁償するメドがつかなくなったとき。					
5	自分の大切な人のために，限られた金銭を費やす必要ができたとき。					
6	今回の事件とは別に，自分の生きる目標ができたとき。					
7	どんなに償っても被害者やその家族に許してもらえないと感じたとき。					
8	自分につらいことが起こって，気分が沈みがちになってしまったとき。					

		全くない	ない	少しある	ある	非常にある
9	被害者やその家族に，ののしられたとき。					
10	被害者やその家族が自分の言い分を聞いてくれなかったとき。					
11	同じようなことをした人で，もっとたやすく被害者に許してもらえている人もいるのに，自分はなかなか許してもらえないと分かったとき。					

これで調査票２は終わりです。

引き続いて，調査票３があります。担当者の指示に従ってください。

整理番号

調査票３

これから，あなたに想像上の手紙のやり取りをしていただきます。これは，あなた自身が自分と誰か別の人の立場になって，「自分から相手へ」，「相手から自分へ」というように手紙を書くものです。

今回は，あなたの事件の被害者の方又は被害者の家族（遺族）の方と想像上の手紙のやり取りをしていただきます。

○ 手紙を，被害者の方や被害者の家族（遺族）の方に実際に見せることはありません。

○ あなたが書いた手紙の内容をもとに，あなたに対する教育に役立てることはありますが，手紙の内容を他の受刑者に見せたり，あなたにとって不利益なことをすることはありません。

あなたが書こうと思ったことを自由に書いてください。

それでは，想像上の手紙のやり取りをしていただきます。

手紙の相手は，

① 被害者の方（死亡している方に書いてもかまいません。）

② 被害者の家族（遺族）の方

のどちらかです。

どちらを相手にするかは，あなたが決めます。被害者の方や被害者の家族（遺族）の方が複数いる場合は，その中の一人に決めてください。

あなたが手紙を書く相手に○をつけてください。

	① 被害者の方
	② 被害者の家族（遺族）の方

《 ➡ どちらかに○をつけてください。》

手紙は全部で３通書いていただきます。１通目から順に書きます。

１通目　あなたから相手へ

２通目　相手からあなたへ

３通目　あなたから相手へ

まず，あなたから相手の方に手紙を書いてください。書かなければいけないことや，書いてはいけないことはありません。正解や間違いといったこともありません。難しく考えないで，自分の言葉で相手への気持ちを自由に書いてください。あなたの思うままを書いてください。

１通目　あなたから相手へ

（Ａ４用紙３枚）
～（省略）～

（足りない場合は，用紙の裏につづきを書いてください。）

では，次に，相手からあなたへの手紙を書いていただきます。

あなたの手紙を読んだ相手が，どのような手紙をあなたに書くかを想像して書いてみてください。正解や間違いはありません。あなたが想像したとおりに，自由に書いてください。

２通目　相手からあなたへ

（Ａ４用紙３枚）
～（省略）～

（足りない場合は，用紙の裏につづきを書いてください。）

では，最後に，相手からの手紙を読んだあなたの返事を相手にあてて書いてください。

相手へのあなたの素直な気持ちを自由に書いてください。

3通目　あなたから相手へ

（A４用紙３枚）
～（省略）～

（足りない場合は，用紙の裏につづきを書いてください。）

お疲れ様でした。調査終了です。ご協力ありがとうございました。

対象者情報記入票

施設名：

○ 基本情報

No.	項目	記入欄			
1	整理番号				
2	調査日	西暦	年	月	日
3	性別				
4	生年月日	西暦	年	月	日
5	刑名・刑期	刑名	刑期		
6	刑期起算日	西暦	年	月	日
	刑期終了日	西暦	年	月	日
7	処遇指標・符号				
8	犯数・入所度数		犯	入	

○ 事件・被害者関連情報

No.	項目		記入欄	
9	罪名			
10	死亡被害者数			
11	死亡被害者（①の番号が小さいものから順に5名分記載）		①関係	②暴力的行為
		A		
		B		
		C		
		D		
		E		
12	非死亡被害者数			
13	非死亡被害者（被害の程度が重いものから順に5名分記載）		①関係	②暴力的行為
		A		
		B		
		C		
		D		
		E		
14	共犯者			
15	被害弁償			
16	本件事件の特徴			
17	事件発生年月	西暦	年	月

○ 生活関連情報

18	IQ	
19	精神疾患	
20	自殺歴	
21	懲罰歴	

○ 教育受講状況（R4除く）

22	処遇類型別指導（生命関連）の受講	
23	特別改善指導の受講	
24	一般改善指導（被害者感情理解指導）の受講	
25	宗教教誨の実施の有無	
26	月命日供養の実施の有無	
27	篤志面接の実施の有無	

○ R4受講状況

28	R4の受講状況	
29	R4の受講形態	
30	R4受講開始年月	西暦　　　年　　　月
31	R4受講修了（ドロップアウト）年月	西暦　　　年　　　月
32	R4実受講単元数	
33	R4実受講時間	
34	参加集団の構成人員	

○ R4内容・受講状況

35	被害者関係者の参加の有無と属性	
36	被害者（遺族）との対話・講話の単元数	
37	ビデオ視聴の単元数	
38	録音教材視聴の単元数	
39	グループワークの単元数	
40	ロールレタリングの単元数	
41	今後の生活設計についての指導の単元数	
42	受講時の聞く姿勢	
43	受講時の発言状況	
44	指導修了時の評価	

別添資料２　第一次調査における調査票１の分析関係資料

１　テキストマイニングとは

テキストマイニングは，大量のテキストデータから，ノイズを取り除き，分類・整理を行ってパターンを発見していく方法であり，ビジネスやマーケティングの領域で顧客の生の声を新商品開発等に活かすべく発達してきた手法である。一方で，社会科学や人間科学の領域においてもテキストデータの分析は非常に重要な課題である。従来，質的研究においては，テキストデータの分類・分析に際して，例えばＫＪ法のような分類・整理方法が用いられてきたが，これらの分析方法は，分類結果が研究者の解釈によって異なるという信頼性の問題，扱うことのできるデータの量が限られるという量的な問題などがあった。これらを解決するための一つの方策がテキストマイニングの手法である。

２　本研究におけるテキストマイニングの手続き

まず，第一次調査のデータに対し，テキストマイニングの手法を用い，キーワードの出現頻度等から反応内容をカテゴライズした。テキストマイニングに際しては，PASW Text Analytics for Surveys 3.0.1（現：IBM SPSS Text Analytics for Surveys）を用いた。

本研究においては，受講者の知識面・認知面における変化だけでなく，情緒面での変化についても把握することが目的であったため，キーワードの抽出に際しては「感性分析」を適用することとした。同機能は，テキストの表現から書き手の心理状態や感性を自動判断することを可能としたものであり，例えば，「申し訳ない」，「償う」，「謝罪」，「許してほしい」，「弁償」，「すまない」等であれば＜謝罪＞，「つらい」，「悲しい」，「みじめだ」，「惜しまれる」，「信じてもらえない」等であれば＜悲しい＞という一つの「タイプ」として抽出することを可能とした機能である。また，テキストマイニングの基礎となる形態素解析(形態素とは，「意味を持つ最小の言語単位」の意である)では，例えば「楽しいと思うことはない」という文章は，「楽しい／と／思う／こと／は／ない」のように分析され，「楽しいと思うことはない」は，「楽しい」を否定しているにもかかわらず，シンプルに形態素解析を行っただけでは「楽しい」と同じに扱われてしまう。「楽しい」と「ない」との共起に着目して分析を行うことで一定程度この問題は解消されるが，例えば「とても楽しく，飽きることはない」文章については，「楽しい」と「ない」の共起に着目することで逆に意味を取り違えることとなる。「楽しいと思うことはない」等を一つひとつ辞書設定することで対処は可能だが，対象とするテキストデータの量にもよるだろうが，作業量が莫大となるため，大量のテキストデータの処理を前提に行うテキストマイニングにおいては理想的な対処法とは言えない。こうした問題点への対処としても感性分析は有用であり，例えば「許さない」を＜恨み＞として，「許してもらえなかった」を＜悲しい＞として抽出することが可能であるため，「許し」に係る「内容」であることを踏まえつつ，回答者がその回答に込めた「感情」についても把握することができる。

キーワードの抽出に際しては，同義語や表記のゆれに対応するため，例えば，「被害者」，「被害者様」，「被害者の方」，「被害者さん」等は「被害者」として，「分かる」，「わかる」，「判る」，「解る」，「解かる」等は，「分かる」としてまとめるなどして辞書設定を行った。また，例えば「被害者の視点を取り入れた教育」であれば，特に設定を行わずにキーワードを抽出すると，「被害者／の／視点／を／取る／入れる／教育」と分割して抽出されるため，今回の分析上必要な複合語(被害者遺族，被害弁償，損害賠償など)については，あらかじめキーワードとして設定し，分割されずに抽出できるようにした。また，刺激語との対応により，同様のキーワードが抽出されていても，まったく意味が異なる場合があるため，カテゴリ化に際しては，刺激語とキーワード(場合によっては複数のキーワード)を関連付けるなどの工夫を行った。例えば，被害者に責任がなかった旨の回答については，「落ち度」，「責任」，「非」，「罪」等と「ない」の共起について条件規則を作成した。

別添資料２

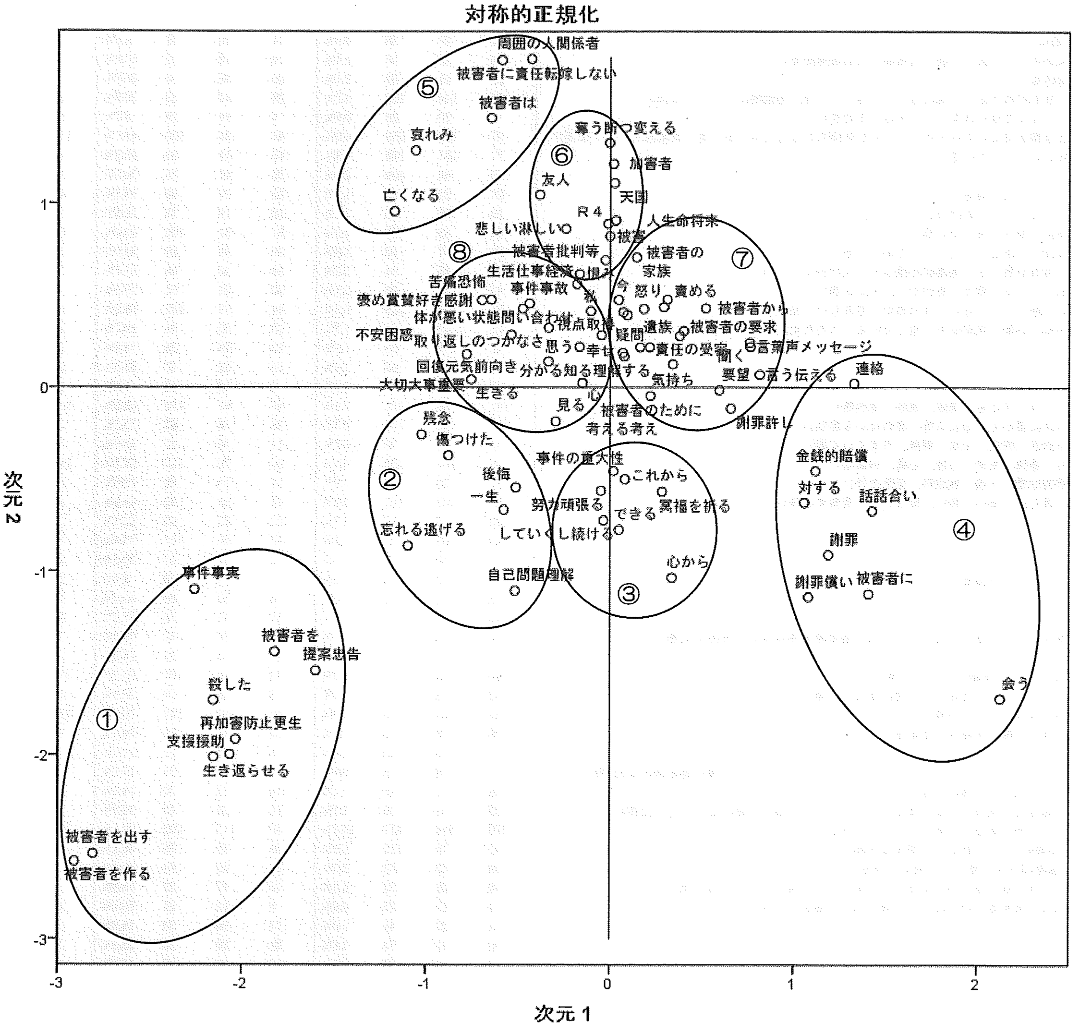
表1　第一次調査・抽出されたカテゴリー

カテゴリ番号	カテゴリ名（内容）	総反応数（合計：4141）				該当反応産出人数（合計：208名）				平均反応数		
		指導前	指導後	合計	%	指導前	指導後	合計	%	指導前	指導後	全体
1	（被害者の）ために	15	23	38	0.9%	11	20	31	14.9%	.16	.20	.18
2	これから（これから，この先，今後，出所後，社会復帰後等）	24	32	56	1.4%	19	18	37	17.8%	.26	.27	.27
3	していく・し続ける	25	61	86	2.1%	20	36	56	26.9%	.27	.52	.41
4	疑問（許してくれるだろうか？，傷は治っただろうか？等，比較的クローズドな問い）	74	119	193	4.7%	39	44	83	39.9%	.81	1.02	.93
5	提案・忠告（～しなくてはいけない・～するべきだ等）	6	20	26	0.6%	4	14	18	8.7%	.07	.17	.13
6	問い合わせ（どう償えばよいだろうか？，どんな気持ちだっただろうか？等，比較的オープンな問い）	97	153	250	6.0%	44	56	100	48.1%	1.07	1.31	1.20
7	要望（～してほしい，～したい等）	77	101	178	4.3%	43	51	94	45.2%	.85	.86	.86
8	できる	45	64	109	2.6%	35	41	76	36.5%	.49	.55	.52
9	哀れみ（かわいそう，気の毒等）	24	21	45	1.1%	22	17	39	18.8%	.26	.18	.22
10	後悔（後悔している，～しておけばよかった等）	19	26	45	1.1%	16	19	35	16.8%	.21	.22	.22
11	恨み（恨む，憎む，呪う，許さない等）	84	83	167	4.0%	51	51	102	49.0%	.92	.71	.80
12	残念（残念，無念，台無しにした，～したかった等）	29	37	66	1.6%	19	31	50	24.0%	.32	.32	.32
13	体が悪い状態（障害を負った，後遺症が残った，大けがをした等）	47	47	94	2.3%	34	32	66	31.7%	.52	.40	.45
14	怒り（怒り，怒っている，憤り，腹が立つ，キレる等）	43	45	88	2.1%	30	31	61	29.3%	.47	.38	.42
15	悲しい・淋しい（悲しい，つらい，みじめだ，さみしい，泣く等）	81	145	226	5.5%	44	77	121	58.2%	.89	1.24	1.09
16	不安・困惑（不安，心配，気がかり，困っている，うろたえている，動揺している等）	28	33	61	1.5%	18	23	41	19.7%	.31	.28	.29
17	遺族	18	45	63	1.5%	12	26	38	18.3%	.20	.38	.30
18	一生	23	45	68	1.6%	15	32	47	22.6%	.25	.38	.33
19	加害者	3	15	18	0.4%	3	12	15	7.2%	.03	.13	.09
20	家族（家族，父，母，子ども，親戚，親族，身内等）	141	166	307	7.4%	65	67	132	63.5%	1.55	1.42	1.48
21	会う（会う，お目に掛かる，訪ねる等（会わないも含む））	53	56	109	2.6%	35	48	83	39.9%	.58	.48	.52
22	回復・元気・前向き（回復，元気，順調，うまくいく等）	12	16	28	0.7%	11	16	27	13.0%	.13	.14	.13
23	気持ち（気持ち，感情，気分，心理，心境，内面等）	99	151	250	6.0%	50	70	120	57.7%	1.09	1.29	1.20
24	金銭的賠償（損害賠償，弁償，慰謝料，保証金等）	17	20	37	0.9%	14	14	28	13.5%	.19	.17	.18
25	苦・痛・恐怖（苦しい，痛い，怖い，恐ろしい，苦労する等）	58	103	161	3.9%	41	51	92	44.2%	.64	.88	.77
26	見る	25	46	71	1.7%	23	32	55	26.4%	.27	.39	.34
27	言う・伝える	69	108	177	4.3%	45	66	111	53.4%	.76	.92	.85
28	言葉・声・メッセージ	23	50	73	1.8%	12	37	49	23.6%	.25	.43	.35
29	幸せ（幸せ，しあわせ，幸福等）	6	19	25	0.6%	5	14	19	9.1%	.07	.16	.12
30	考える・考え	48	101	149	3.6%	33	52	85	40.9%	.53	.86	.72
31	今	72	82	154	3.7%	37	41	78	37.5%	.79	.70	.74
32	再加害防止・更生（二度と傷つけない，これ以上被害者を作らない，更生する等）	16	38	54	1.3%	12	30	42	20.2%	.18	.32	.26
33	殺した	14	16	30	0.7%	12	15	27	13.0%	.15	.14	.14
34	思う（思う，思い出す，（推測の）だろう等）	240	339	579	14.0%	73	94	167	80.3%	2.64	2.90	2.78
35	支援・援助（力になりたい，支えたい，役に立ちたい等）	63	88	151	3.6%	33	46	79	38.0%	.69	.75	.73
36	私（私，俺，僕，私のこと，自分等）	184	264	448	10.8%	65	82	147	70.7%	2.02	2.26	2.15
37	視点取得（被害者の立場・気持ちになる等）	38	78	116	2.8%	29	47	76	36.5%	.42	.67	.56
38	事件・事故	7	33	40	1.0%	6	25	31	14.9%	.08	.28	.19
39	事件の重大性（とんでもないことをしてしまった，ひどいことをした，深い傷を負わせた等）	7	19	26	0.6%	7	14	21	10.1%	.08	.16	.13
40	事件事実（殴った，刺した，逃げた等）	28	17	45	1.1%	16	14	30	14.4%	.31	.15	.22
41	自己問題理解（被害者の気持ちをよく考えるべきだった，見捨てず助けるべきだった等）	23	33	56	1.4%	16	26	42	20.2%	.25	.28	.27
42	謝罪（謝罪したい，申し訳ない，許してほしい，悪かった等）	279	394	673	16.3%	89	113	202	97.1%	3.07	3.37	3.24
43	謝罪（許し）（謝罪のうち，「許し」に関する内容）	41	78	119	2.9%	26	49	75	36.1%	.45	.67	.57
44	謝罪（償い）（謝罪のうち「償い」に関する内容）	29	53	82	2.0%	19	45	64	30.8%	.32	.45	.39
45	取り返しのつかなさ（取り返しのつかないことをした，二度と戻ってこない等）	10	22	32	0.8%	10	17	27	13.0%	.11	.19	.15
46	周囲の人・関係者（被害者だけではなく，周りの人も被害者だ等）	8	17	25	0.6%	8	13	21	10.1%	.09	.15	.12
47	傷つけた	14	27	41	1.0%	14	20	34	16.3%	.15	.23	.20
48	心	30	45	75	1.8%	24	29	53	25.5%	.33	.38	.36
49	心から	18	18	36	0.9%	13	12	25	12.0%	.20	.15	.17
50	人生・命・将来（命を奪った，将来があった，人生の半ばだった等）	30	59	89	2.1%	22	36	58	27.9%	.33	.50	.43
51	生きる	19	28	47	1.1%	14	22	36	17.3%	.21	.24	.23
52	生き返らせる（生き返ってほしい，元に戻したい等）	17	24	41	1.0%	14	17	31	14.9%	.19	.21	.20
53	生活・仕事・経済（生活，日常，仕事，経済面，お金で苦労していないだろうか等）	40	66	106	2.6%	26	46	72	34.6%	.44	.56	.51
54	責める（責める，自責の念，責められた，非難された等）	13	36	49	1.2%	10	25	35	16.8%	.14	.31	.24
55	責任の受容（自分の責任だ，悪いのは僕だ，どんなに非難されても仕方ない等）	23	40	63	1.5%	17	28	45	21.6%	.25	.34	.30
56	対する	54	53	107	2.6%	32	35	67	32.2%	.59	.45	.51
57	大切・大事・重要	15	31	46	1.1%	11	24	35	16.8%	.16	.26	.22
58	奪う・断つ・変える（奪ってしまった，奪われた，断った，壊した，変わってしまった等）	17	37	54	1.3%	15	25	40	19.2%	.19	.32	.26
59	天国（天国，彼岸，あの世等）	9	9	18	0.4%	7	5	12	5.8%	.10	.08	.09
60	努力・頑張る（努力したい，頑張らねばならない，努めたい，精一杯やる等）	4	17	21	0.5%	4	9	13	6.3%	.04	.15	.10
61	被害	1	4	5	0.1%	1	4	5	2.4%	.01	.03	.02
62	被害者に責任転嫁しない（被害者は何も悪くない，非はない，責任はない等）	15	44	59	1.4%	15	31	46	22.1%	.16	.38	.28
63	被害者の視点を取り入れた教育（被害者教育，R４，被害者から学ぶ等）	9	15	24	0.6%	8	11	19	9.1%	.10	.13	.12
64	被害者の要求（被害者を主格とした，～して欲しい，～を望む，求める等）	8	19	27	0.7%	8	14	22	10.6%	.09	.16	.13
65	被害者を作る	9	19	28	0.7%	4	18	22	10.6%	.10	.16	.13
66	被害者を出す	18	10	28	0.7%	13	9	22	10.6%	.20	.09	.13
67	被害者支援団体（被害者の会，被害者の集まり，被害者同士の支え合い等）	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	.00	.00	.00
68	被害者批判等（被害者が悪い，同情の余地はない，信号無視をした等）	92	45	137	3.3%	21	19	40	19.2%	1.01	.38	.66
69	分かる・知る・理解する	56	76	132	3.2%	38	43	81	38.9%	.62	.65	.63
70	聞く	37	37	74	1.8%	20	26	46	22.1%	.41	.32	.36
71	亡くなる（亡くなった，死んだ，息を引き取った，この世から旅立った等）	32	40	72	1.7%	24	28	52	25.0%	.35	.34	.35
72	忘れる・逃げる（忘れたい，逃げたい，忘れてはならない，逃げてはならない，向き合っていく等）	28	65	93	2.2%	22	45	67	32.2%	.31	.56	.45
73	冥福を祈る（手を合わせる，供養する，線香をあげる，宗教教誨等）	38	48	86	2.1%	27	37	64	30.8%	.42	.41	.41
74	友人	22	18	40	1.0%	14	15	29	13.9%	.24	.15	.19
75	褒め・賞賛・好き・感謝（優しい，愛している，尊敬，感謝している，恩返し等）	51	54	105	2.5%	21	34	55	26.4%	.56	.46	.50
76	連絡（連絡，手紙，電話等）	39	43	82	2.0%	24	28	52	25.0%	.43	.37	.39
77	話・話合い	12	14	26	0.6%	8	11	19	9.1%	.13	.12	.13
S1	被害者は	402	557	959	23.2%	91	117	208	100.0%	4.42	4.76	4.61
S2	被害者の	395	548	943	22.8%	91	115	206	99.0%	4.34	4.68	4.53
S3	被害者に	369	497	866	20.9%	91	116	207	99.5%	4.05	4.25	4.16
S4	被害者を	310	411	721	17.4%	85	105	190	91.3%	3.41	3.51	3.47
S5	被害者から	267	361	628	15.2%	83	104	187	89.9%	2.93	3.09	3.02
S6	被害者，	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	.00	.00	.00
S7	被害者と	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	.00	.00	.00
S8	被害者とは	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	.00	.00	.00
S9	被害者も	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	.00	.00	.00
	合計	1749	2392	4141	100.0%	91	117	208	100.0%	19.22	20.44	19.91

※4141反応中314反応（7.6%）は刺激語でしかカテゴライズできず。
例えば，「被害者は60歳だ」，「被害者は男だ」，「被害者になる」，「被害者の行動」等，被害者の属性に係る記載やそれだけでは意味付けが困難な反応がこれにあたる。
S1～S9のSは刺激語の意である。第一次調査では刺激語の助詞を固定しているため，S6～S9に該当する回答はない。

別添資料２

表２　第一次調査・反応ごと・対応分析布置図



① ＜加害行為・事件事実と再加害防止＞

「被害者を作る」「被害者を出す」／「再加害防止・更生」「支援・援助」「生き返らせる」「殺した」「提案・忠告」「被害者を」「事件事実」

② ＜直面化と後悔・自己問題理解＞

「後悔」「一生」「自己問題理解」「残念」「傷つけた」「忘れる・逃げる」

③ ＜努力・冥福の祈りと継続性＞

「していく・し続ける」「できる」「これから」「事件の重大性」「努力・頑張る」「冥福を祈る」「心から」

④ ＜謝罪・償いと対話＞

「謝罪」「謝罪(償い)」「被害者に」「金銭的賠償」「対する」「話・話合い」「連絡」／「会う」

⑤ ＜被害者・その関係者と彼らへの評価・感情＞

「哀れみ」「亡くなる」／「周囲の人・関係者」「被害者に責任転嫁しない」「被害者は」

⑥ ＜加害行為と被害者に与えた影響＞

「加害者」「天国」「奪う・断つ・変える」「友人」「悲しい・寂しい」「恨み」「生活・仕事・経済」「人生・命・将来」「R４」「被害」「家族」「被害者批判等」

⑦ ＜被害者の実情に対する関心＞

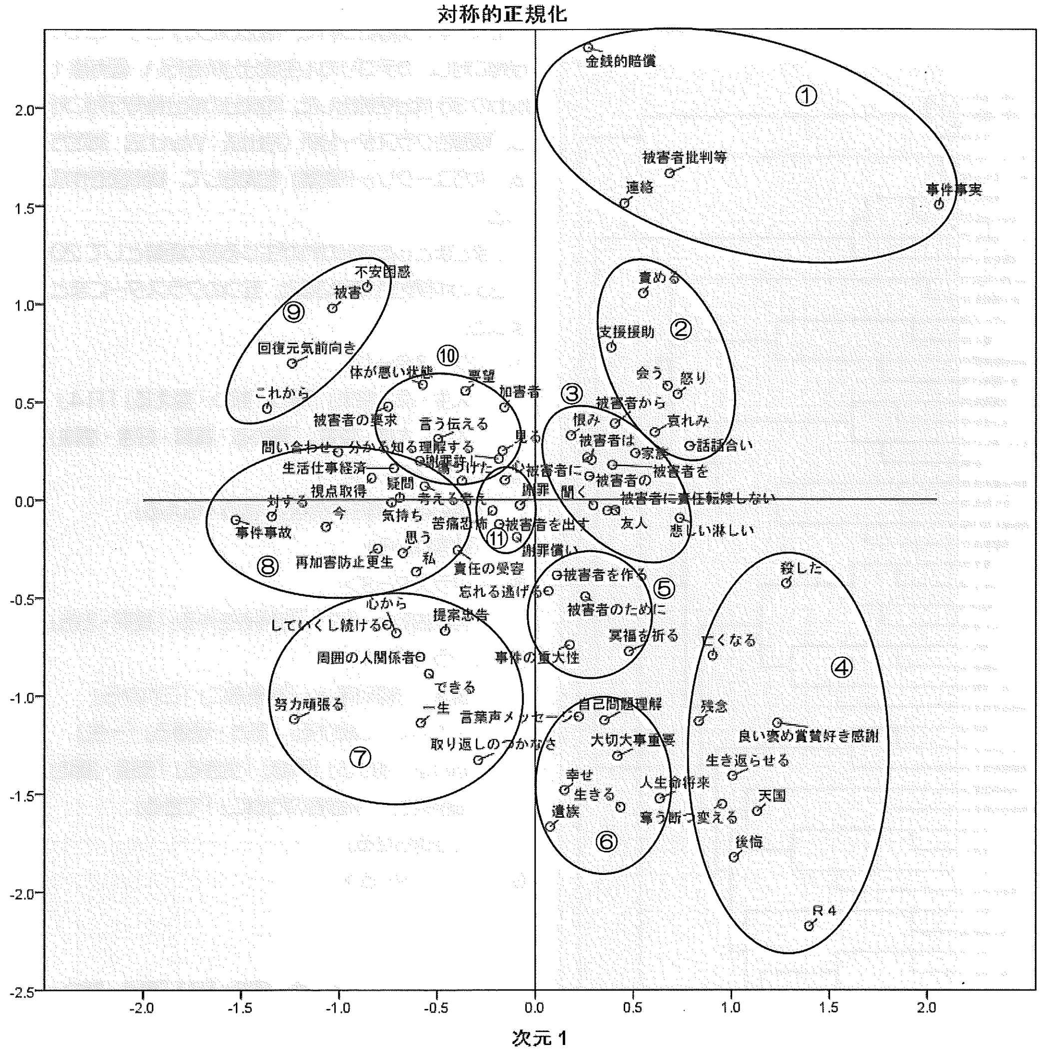
「考える・考え」「分かる・知る・理解する」「疑問」「遺族」「被害者のために」「問い合わせ」「視点取得」「今」「被害者の」／「責任の受容」「被害者の要求」「気持ち」「怒り」「責める」「被害者から」／「要望」「謝罪（許し）」「言葉・声・メッセージ」「聞く」「言う・伝える」

⑧ ＜加害行為の重大性＞

「見る」「心」「回復・元気・前向き」「取り返しのつかなさ」「幸せ」「思う」「私」「生きる」「大切・大事・重要」「苦・痛・恐怖」「褒め・賞賛・好き・感謝」「体が悪い状態」「事件・事故」「不安・困惑」

別添資料２

表３　第一次調査・受講者ごと・対応分析布置図



①　＜金銭的賠償・事件事実と被害者批判＞
「被害者批判等」「連絡」／「金銭的賠償」／「事件事実」

②　＜被害者心情理解と対話＞
「支援・援助」「責める」「怒り」「会う」「哀れみ」「話・話合い」

③　＜刺激語＞
「被害者は」「被害者の」「被害者に」「被害者を」「被害者から」「恨み」「家族」／「被害者に責任転嫁しない」「友人」「聞く」「悲しい・寂しい」

④　＜加害行為・後悔と被害者の視点を取り入れた教育＞
「残念」「亡くなる」「褒め・賞賛・好き・感謝」／「殺した」／「生き返らせる」「奪う・断つ・変える」「天国」「後悔」／「R４」

⑤　＜自己の加害者性・直面化と冥福の祈り＞
「被害者を作る」「忘れる・逃げる」「被害者のために」「事件の重大性」「冥福を祈る」

⑥　＜被害者の言葉と自己問題理解＞
「言葉・声・メッセージ」「自己問題理解」「大切・大事・重要」／「遺族」「幸せ」／「人生・命・将来」「生きる」

⑦　＜事件の重大性と努力・継続性＞
「一生」「取り返しのつかなさ」／「していく・し続ける」「心から」「できる」「周囲の人・関係者」「提案・忠告」／「努力・頑張る」

⑧　＜再加害防止・更生と責任の受容・被害者の実情理解(心情・生活等)＞
「事件・事故」「対する」／「思う」「私」「再加害防止・更生」「責任の受容」／「疑問」「気持ち」「視点取得」「生活・仕事・経済」「問い合わせ」／「今」

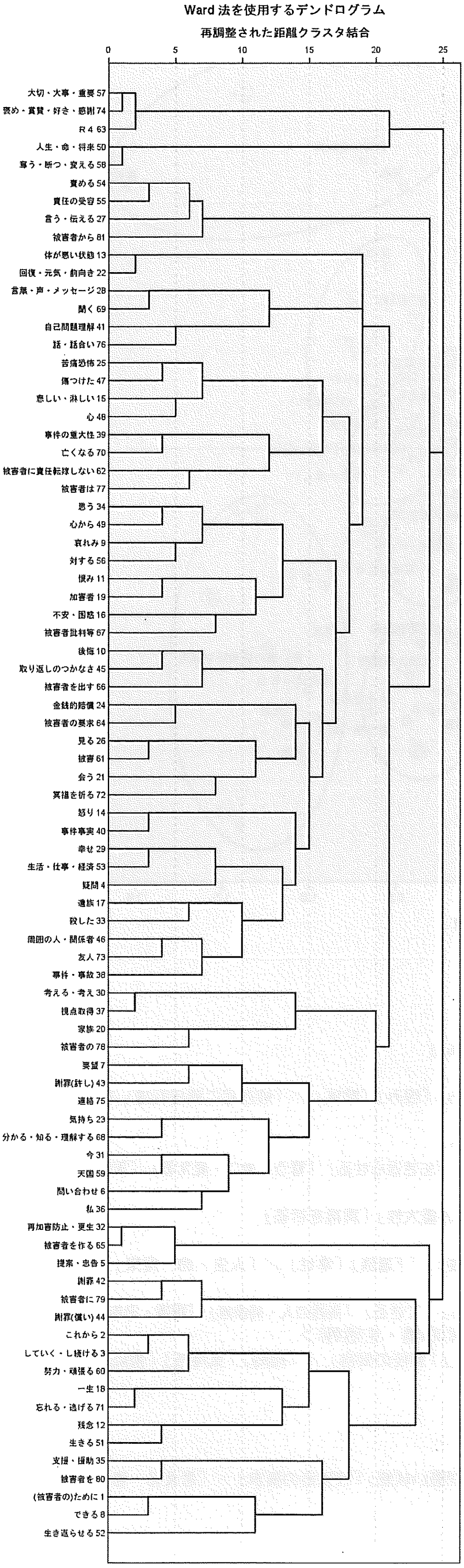
⑨　＜被害と回復・不安・困惑＞
「不安・困惑」「被害」／「これから」「回復・元気・前向き」

⑩　＜被害者の実情理解(身体状況等)＞
「見る」「分かる・知る・理解する」／「要望」「加害者」「体が悪い状態」「被害者の要求」／「考える・考え」「謝罪(許し)」「言う・伝える」「傷つけた」

⑪　＜謝罪と被害者の実情理解(苦・痛・恐怖)＞
「謝罪」「心」「苦・痛・恐怖」「被害者を出す」「謝罪(償い)」

別添資料２

表４　第一次調査・反応・クラスター分析樹形図



全4141反応について，抽出したカテゴリーの01行列に対し，カテゴリカル主成分分析を行い，固有値1以上の35成分を抽出した。同成分の成分負荷行列に対し，階層的クラスター分析（抽出法：Ward法，測定方法：平方ユークリッド距離）を実施して，樹形図を作成した。

こまごまとした枝分かれが生じる前の距離として20と25の中間付近で区切ると，五つのクラスターにまとまった。

① <クラスター1>
「人生・命・将来」「奪う・断つ・変える」「R4」「大切・大事・重要」「褒める・賞賛・好き・感謝」

② <クラスター2>
「責める」「責任の受容」「言う・伝える」「被害者から」

③ <クラスター3>
「再加害防止・更生」「被害者を作る」「提案・忠告」

④ <クラスター4>
「謝罪」「謝罪(償い)」「被害者に」「これから」「していく・し続ける」「努力・頑張る」「一生」「忘れる・逃げる」「残念」「生きる」「支援・援助」「被害者を」「被害者のために」「できる」「生き返らせる」

⑤ <クラスター5>
その他

①については，「人生・命・将来」及び「奪う・断つ・変える」は，被害者等の人生や命，将来を奪い，断ち，変えた旨の反応が該当する。「R4」，「大切・大事・重要」及び「褒める・賞賛・好き・感謝」は，R4と，命の大切さや償いの重要さ，被害者が被害者遺族にとっていかに大切な存在であったかなどの内容とを関連付けた反応が該当する。また，R4の受講や，指導に参与した遺族への感謝，R4を受けた上で今後いかに被害者に対するかが重要であることなどもここにくくられる。代表的には，「被害者の視点を取り入れた教育を受けられたことに感謝している。被害者の方の命を奪ったこと，被害者遺族の人生を狂わせたことの重大さにようやく気付けたから。」等の反応が考えられる。

②については，「被害者から」及び「責める」又は「言う・伝える」の組合せを受けての「責任の受容」という反応が多く，「被害者からどんなに責められたとしても，自分の責任なので仕方ない」，「被害者から，苦しんでいることを伝えられ，自分の責任の重さが分かった」等での反応が代表的である。

③は，「被害者を作る」と「再加害防止・更生」，「提案・忠告」のまとまりであり，「二度と被害者を作るこ

別添資料２

とがないよう，今回必ず更生せねばならない」等の反応

がここにあてはまる。「被害者を作る」が「再加害防止・更生」の文脈で生じることは，「被害者を出す」が「後悔」及び「取り返しのつかなさ」と一まとまりになっていることと対照的である。

④は，「被害者に」対する「謝罪」に関連したまとまりと考えられる。特に，「これから」，「していく・し続ける」，「努力・頑張る」，「一生」等が含まれていることから，今後の謝罪への意思や謝罪行動に関する反応のまとまりと言えよう。なお，「忘れる・逃げる」については，その多くが「忘れない」，「逃げてはならない」等の意で用いられているものである。

⑤は，事件事実や被害者の状況，様々な感情表現などが含まれている。

⑤については，距離１５付近で切ると，次のとおりにまとまった。

Ａ　「体が悪い状態」「回復・元気・前向き」

Ｂ　「言葉・声・メッセージ」「聞く」「自己問題理解」「話・話合い」

Ｃ　「苦・痛・恐怖」「傷つけた」「悲しい・寂しい」「心」

Ｄ　「事件の重大性」「亡くなる」「被害者に責任転嫁しない」「被害者は」

Ｅ　「思う」「心から」「哀れみ」「対する」「恨み」「加害者」「不安・困惑」「被害者批判等」

Ｆ　「後悔」「取り返しのつかなさ」「被害者を出す」

Ｇ　「金銭的賠償」「被害者の要求」「見る」「被害」「会う」「冥福を祈る」

Ｈ　「怒り」「事件事実」「幸せ」「生活・仕事・経済」「疑問」「遺族」「殺した」「周囲の人・関係者」「友人」「事件・事故」

Ｉ　「考える・考え」「視点取得」「家族」「被害者の」

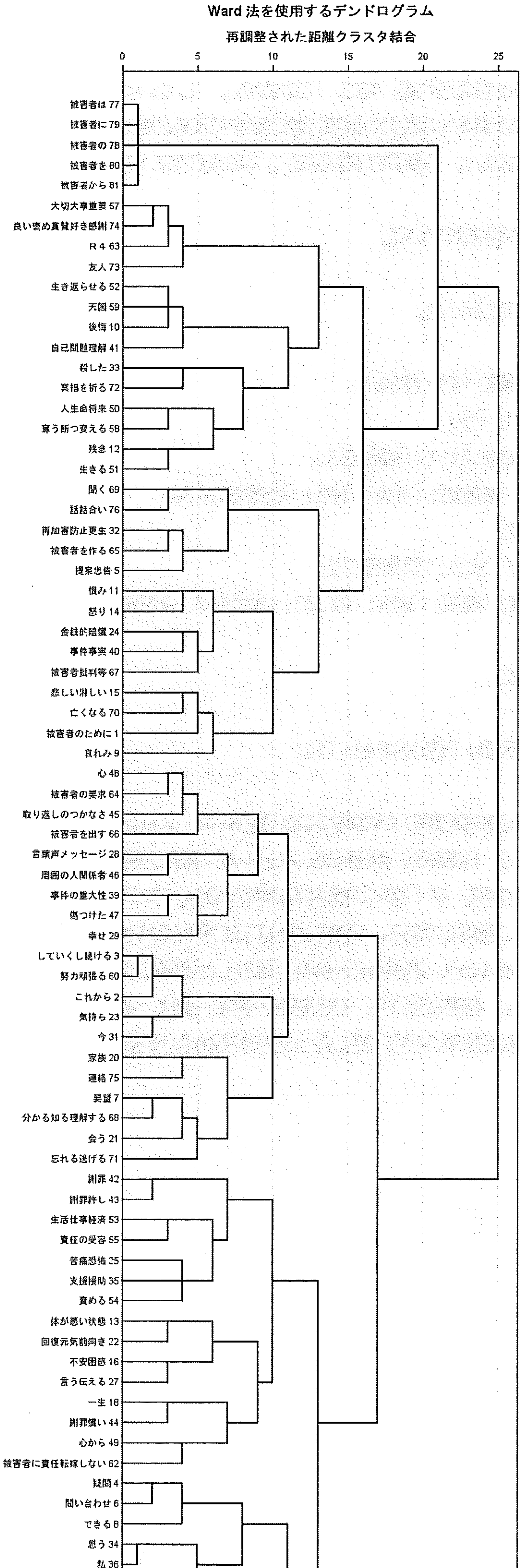
Ｊ　「要望」「謝罪(許し)」「連絡」

Ｋ　「気持ち」「分かる・知る・理解する」「今」「天国」「問い合わせ」「私」

それぞれの詳細については触れないが，例えばＢで「自己問題理解」が被害者等の「言葉・声・メッセージ」を「聞く」，又は，被害者等との「話・話合い」とまとまって生じたり，「被害者に責任転嫁しない」が「事件の重大性」や「亡くなる」等と生じたりしていること，その一方で，「被害者批判等」が「(多くの場合被害者の)恨み」や「(多くの場合，受講者自身の)不安・困惑」とまとまっていることなどは非常に示唆的である。受講者が被害者に責任転嫁せず，かつ，自分の問題点に眼を向けるためには，彼らの不安や困惑を取り除いたり，被害者の心情を「恨み」と安易にラベリングして距離を置いたり思考停止したりする必要があり，そのためには，被害者等から，被害者等の実情・現状，事件がいかに被害者等に様々なまた大きな影響を与えたか等について，その言葉を聞いたり，話し合ったりする機会が重要であることを示している可能性がある。

別添資料２

表５　第一次調査・受講者ごと・クラスター分析樹形図



全208名の回答に対して，主成分分析を行い，固有値１以上の27成分を抽出した。同成分の成分負荷行列に対し，階層的クラスター分析（抽出法：Ward法，測定方法：平方ユークリッド距離）を実施して，樹形図を作成した。

こまごまとした枝分かれが生じる前の距離として距離15のラインで切ると，次の五つのクラスターに分かれた。なお，さらに細分化する場合，内部で分岐が見込まれる部分にスラッシュを入れた。

① ＜クラスター1＞

「被害者は」「被害者の」「被害者に」「被害者を」「被害者から」

② ＜クラスター2＞

「大切・大事・重要」「褒め・賞賛・好き・感謝」「Ｒ４」「友人」／「生き返らせる」「天国」「後悔」「自己問題理解」／「殺した」「冥福を祈る」「人生・命・将来」「奪う・断つ・変える」「残念」「生きる」

③ ＜クラスター3＞

「聞く」「話・話合い」「再加害防止・更生」「被害者を作る」「提案・忠告」／「恨み」「怒り」「金銭的賠償」「事件事実」「被害者批判等」／「悲しい・寂しい」「亡くなる」「被害者のために」「哀れみ」

④ ＜クラスター4＞

「心」「被害者の要求」「取り返しのつかなさ」「被害者を出す」「言葉・声・メッセージ」「周囲の人・関係者」「事件の重大性」「傷つけた」「幸せ」／「していく・し続ける」「努力・頑張る」「これから」「気持ち」「今」／「家族」「連絡」「要望」「分かる・知る・理解する」「会う」「忘れる・逃げる」

⑤ ＜クラスター5＞

「謝罪」「謝罪(許し)」「生活・仕事・経済」「責任の受容」「苦・痛・恐怖」「支援・援助」「責める」／「体が悪い状態」「回復・元気・前向き」「不安・困惑」「言う・伝える」「一生」「謝罪(償い)」「心から」「被害者に責任転嫁しない」／「疑問」「問い合わせ」「できる」「思う」「私」「考える・考え」「視点取得」／「見る」「被害」「加害者」「事件・事故」「対する」「遺族」

①は，五つの刺激語である。つまり，第一次調査のようにあらかじめ助詞を含んだ刺激語が提示された場合，それぞれの受講者が，それぞれの刺激語について，多少の違いはあれど，おおむねまんべんなく反応したことが分かる。また，いずれかの刺激語と特定の他のカテゴリーが極端に高頻度で同時に生じることもなかったと考えられる。

②は，被害者の命・人生を奪ったこと，冥福を祈る旨や後悔に関する反応のまとまりである。自己問題理解に関する反応を出す者がこれらの反応を同時に出していることが示唆的である。Ｒ４に関する反応を出す者と，肯定的な評価や感情を同時に出す者も同じまとまりに入っている。

別添資料２

③は，「二度と被害者を作ることのないよう，更生しなければならない」といった回答に代表される，「被害者を作る」，「再加害防止・更生」，「提案・忠告」に関する反応や，被害者等の話を聞きたい，話し合いたいといった反応，被害者等の感情のうち，特に怒りや恨みに係る反応を出している者のまとまりである。一方で，「被害者批判等」や「哀れみ」に係る反応を出している者も同じまとまりにくくられており，一見，両極端に見える反応を同じまとまりにいる者が出していることは示唆的であり，教育が浸透していると見られる反応を出している者の一部ないし多くが，反省一色の反応ではなく，相反する感情やかっ藤を抱いている可能性がうかがわれる。

④は，事件の重大性・取り返しのつかなさに関する反応，被害者の要求や言葉，その心情を知りたいとする反応などを出す者のまとまりである。同時に，被害者やその家族から逃げずに向き合い，その心情等を理解できるよう努めたいとする反応を出している者も同じくくりに含まれる。

⑤は，責任の受容や謝罪，被害者の心情に対する記載等に係る反応を出す者のまとまりであるが，「視点取得」や「疑問」，「問い合わせ」等は，「私」との関係で生じているようであり，純粋に被害者の心情等をおもんぱかる反応を出す者ばかりでなく，被害者等の目に自分がどのように映るか，許しを得られるのかといった反応も出す者も含まれている。又は，両方の反応を同時に出す一群もあると考えられる。

別添資料２

表6　第一次調査・反応ごとχ^2検定

番号	カテゴリ名（内容）		指導前	指導後	合計	χ^2値	p値
3	していく・し続ける	度数	25	61	86	6.24	.012
		%	29.1%	70.9%	100.0%		
5	提案・忠告	度数	6	20	26	3.937	.047
		%	23.1%	76.9%	100.0%		
11	恨み	度数	84	83	167	4.637	.031
		%	50.3%	49.7%	100.0%		
15	悲しい・淋しい	度数	81	145	226	4.008	.045
		%	35.8%	64.2%	100.0%		
17	遺族	度数	18	45	63	4.896	.027
		%	28.6%	71.4%	100.0%		
19	加害者	度数	3	15	18	4.845	.028
		%	16.7%	83.3%	100.0%		
28	言葉・声・メッセージ	度数	23	50	73	3.506	.061
		%	31.5%	68.5%	100.0%		
29	幸せ	度数	6	19	25	3.428	.064
		%	24.0%	76.0%	100.0%		
30	考える・考え	度数	48	101	149	6.362	.012
		%	32.2%	67.8%	100.0%		
32	再加害防止・更生	度数	16	38	54	3.564	.059
		%	29.6%	70.4%	100.0%		
37	視点取得	度数	38	78	116	4.394	.036
		%	32.8%	67.2%	100.0%		
38	事件・事故	度数	7	33	40	10.13	.001
		%	17.5%	82.5%	100.0%		
40	事件事実	度数	28	17	45	7.449	.006
		%	62.2%	37.8%	100.0%		
43	謝罪（許し）	度数	41	78	119	3.042	.081
		%	34.5%	65.5%	100.0%		
50	人生・命・将来	度数	30	59	89	2.712	.100
		%	33.7%	66.3%	100.0%		
54	責める	度数	13	36	49	5.013	.025
		%	26.5%	73.5%	100.0%		
56	対する	度数	54	53	107	3.05	.081
		%	50.5%	49.5%	100.0%		
60	努力・頑張る	度数	4	17	21	4.652	.031
		%	19.0%	81.0%	100.0%		
62	被害者に責任転嫁しない	度数	15	44	59	6.934	.008
		%	25.4%	74.6%	100.0%		
66	被害者を出す	度数	18	10	28	5.618	.018
		%	64.3%	35.7%	100.0%		
68	被害者批判等	度数	92	45	137	36.057	.000
		%	67.2%	32.8%	100.0%		
72	忘れる・逃げる	度数	28	65	93	5.736	.017
		%	30.1%	69.9%	100.0%		
	合計	度数	1749	2392	4141		
		%	42.2%	57.8%	100.0%		

※自由度は全て1である。

別添資料２

表7　第一次調査・受講者ごと・指導受講前後出現の有無・χ^2検定

番号	カテゴリ名（内容）		指導前	指導後	合計	χ^2値	p値
5	提案・忠告	度数	4	14	18	3.711	.054
		%	22.2%	77.8%	100.0%		
9	哀れみ	度数	22	17	39	3.126	.077
		%	56.4%	43.6%	100.0%		
11	恨み	度数	51	51	102	3.177	.075
		%	50.0%	50.0%	100.0%		
15	悲しい・淋しい	度数	44	77	121	6.413	.011
		%	36.4%	63.6%	100.0%		
17	遺族	度数	12	26	38	2.799	.094
		%	31.6%	68.4%	100.0%		
18	一生	度数	15	32	47	3.456	.063
		%	31.9%	68.1%	100.0%		
19	加害者	度数	3	12	15	3.705	.054
		%	20.0%	80.0%	100.0%		
20	家族	度数	65	67	132	4.428	.035
		%	49.2%	50.8%	100.0%		
28	言葉・声・メッセージ	度数	12	37	49	9.662	.002
		%	24.5%	75.5%	100.0%		
32	再加害防止・更生	度数	12	30	42	4.927	.026
		%	28.6%	71.4%	100.0%		
38	事件・事故	度数	6	25	31	8.81	.003
		%	19.4%	80.6%	100.0%		
43	謝罪（許し）	度数	26	49	75	3.932	.047
		%	34.7%	65.3%	100.0%		
44	謝罪（償い）	度数	19	45	64	7.429	.006
		%	29.7%	70.3%	100.0%		
54	責める	度数	10	25	35	3.94	.047
		%	28.6%	71.4%	100.0%		
62	被害者に責任転嫁しない	度数	15	31	46	2.979	.084
		%	32.6%	67.4%	100.0%		
65	被害者を作る	度数	4	18	22	6.535	.011
		%	18.2%	81.8%	100.0%		
72	忘れる・逃げる	度数	22	45	67	4.784	.029
		%	32.8%	67.2%	100.0%		
	合計	度数	91	117	208		
		%	43.8%	56.3%	100.0%		

※自由度は全て1である。

表8　第一次調査・指導受講前後・対応なしサンプルt検定

番号	カテゴリ名（内容）	平均値		t値	自由度	有意確率（両側）
		指導前	指導後			
3	していく・し続ける	.27	.52	-2.086	179.327	.038
5	提案・忠告	.07	.17	-1.757	196.558	.081
15	悲しい・淋しい	.89	1.24	-1.922	206	.056
17	遺族	.20	.38	-1.893	203.485	.060
19	加害者	.03	.13	-2.270	168.075	.024
29	幸せ	.07	.16	-1.765	193.537	.079
30	考える・考え	.53	.86	-2.265	197.974	.025
32	再加害防止・更生	.18	.32	-1.808	205.678	.072
37	視点取得	.42	.67	-1.925	195.507	.056
38	事件・事故	.08	.28	-2.948	171.228	.004
54	責める	.14	.31	-2.040	200.899	.043
58	奪う・断つ・変える	.19	.32	-1.657	200.736	.099
62	被害者に責任転嫁しない	.16	.38	-2.748	182.477	.007
68	被害者批判等	1.01	.38	1.854	159.926	.066
72	忘れる・逃げる	.31	.56	-2.399	201.034	.017

※Nは指導前91，指導後117である。

別添資料3

RL評価観点表（表現参照表）

○ 原則として，肯定的評価「+」か否定的評価「−」かは，表現例を参考に文脈から判断すること。

＼	① 事件の重大性の認識		② 被害者等の実情の理解		③ 責任の受容及び罪悪感の表明		④ 自己の問題性の理解		⑤ 具体的な謝罪・弁償の決意		⑥ 再加害防止への決意	
表現例（例を参考にして実際の文脈から表現の抽出を判断すること）	±	被害者の生命に関する記述	±	身体的被害に関する記述	±	自己の責任に関する記述	±	事件当時の対応に関する記述	±	具体的な謝罪に関する記述	±	再加害防止に関する記述
	+	尊い命	+	体を傷つけた	+	自分に責任がある	+	話し合いをしていれば	+	仏前に手を合わせて	+	どんなことがあっても手を出さない
	+	命の重み	+	痛かった（だろう）	+	悪いのはすべて私	+	酒を飲んでいなければ	+	出所後に謝罪	+	二度と同じ過ちを繰り返さない
	+	命の大切さ	+	辛く苦しかった（だろう）	+	責任から逃げず	+	ルールを守っていれば	+	お会いして謝罪	+	二度と暴力を振るわない
	+	生きる権利	+	ケガの具合はいかが	+	事件に向き合い		（あの時〜していれば）	+	お宅に謝罪に伺う	+	二度と被害者をつくらない
	+	（家族にとって被害者は）	+	リハビリを続けても後遺症	+	事件は私が原因	+	短絡的なものだった	+	直接謝罪する機会を	+	人を傷つけない精神
		かけがえのない存在	+	治療に専念して	+	どんな罰でも受ける	+	これくらい大丈夫と/甘い考え	+	お線香をあげる	+	どんな状況でも助ける
	+	（被害者は）生きていたかった	+	お体を大切に	+	己の罪を忘れず	+	止める勇気がなかった	+	お墓参り	／	二度と姿を現さない
	／	（被害者は）生き返らない			+	生涯背負っていく	+	勝手な思い込みで	+	遺族の気持ちを一番に	±	更生や社会復帰に関する記述
	±	事件の重大性に関する記述	±	精神的被害に関する記述	／	（被害者は）悪くない	+	意志を伝えることができず	+	一生供養を忘れない	+	責任ある行動
	+	とんでもないこと	+	一生消えない心の傷	／	まさかこんなことになるとは	+	頭に血が上って	+	一生償っていくつもり	+	人様に後ろ指を指されない
	+	重大な過ち	+	精神的苦痛	−	わざと〜したわけではない	+	気の緩みで起こした	+	誠意を見せていく	+	まともな人間になれるよう
	+	大変な目	+	悩み/苦しみ/辛い思い	−	（被害者も）悪かった/仕方ない	／	恐怖心からとっさに	／	また手紙を書きます	+	善悪の区別がつけられる
	+	むごいこと	+	憎しみ	±	罪悪感に関する記述	／	追いつめられて	／	押し付けがましいことは承知	+	二度と裏切らない
	+	何てことをしてしまった	+	悲しみ	+	心よりお詫び申し上げます	／	ストレスがたまって			+	二度と悪の道には入らない
	+	あれほどの苦痛	+	孤独感	+	申し訳ない/ごめんなさい	±	自己の問題性に関する記述	±	具体的な弁償等に関する記述	+	良い道に進んで行けるよう
	+	最悪の結果	+	恐怖心	+	ご冥福をお祈りします	+	原因は自分の〜にある	+	賠償金についてお話を	+	自己管理をして
	+	ひどいケガ			+	罪の重さを感じる	+	気が短い	+	毎月少しずつの被害弁償	+	自分自身を変えていきたい
	+	取り返しのつかないこと	±	生活全般の被害に関する記述	+	本当に悪いことをした	+	すぐに手が出てしまう	+	一生かけてもお支払いします	+	必ず更生して
	+	人生を大きく変えてしまった	+	金銭的な苦労	+	いくら謝っても足りない	+	自分本位な考え	+	被害弁償していくつもり		
	+	将来を奪った	+	医療費がかかる	+	許されなくて当然	+	無責任	+	金銭面での賠償		
	+	幸せを奪った/壊した	+	ケガのため仕事ができない	+	自分に怒りを感じる	+	都合のいい受け止め方	+	報奨金からわずかですが		
	+	傷は一生残る	+	食事が作れない	+	自分が情けない	+	仕事をしていれば	+	（金銭面での）償いを		
	／	過去に戻ることはできない	+	生活環境が一変した	+	最低の人間です	／	酒を飲むと暴力を振るう	+	養育費を払う		
	−	（被害者は）大丈夫だ	+	家族を壊してしまい	／	自分が死ねば	／	心の弱さ	／	民事の賠償は弁護士に		
			+	人生にぽっかりと穴	／	許して下さい/勘弁して下さい	／	何を改善すべきか	／	お金（の問題）ではない		
							／	自分には何が欠けているのか	／	弁償はできないが		

・「＋」は肯定的，「−」は否定的な評価に該当する表現であることが多い。
・その他，表現例の「＋」を否定する内容の表現は，「−」表現として抽出できる。
・「／」…肯定的に評価するか否定的に評価するかは，前後の文脈等によって，判断する必要がある。

別添資料3

RL評価観点表（項目別評価表）

得点	① 事件の重大性の認識	② 被害者等の実情の理解	③ 責任の受容及び罪悪感の表明	④ 自己の問題性の理解	⑤ 具体的な謝罪・弁償の決意	⑥ 再加害防止への決意
3	□ 十分認識している	□ 十分理解している	□ 十分受容や表明をしている	□ 十分理解している。	□ 決意が十分みられる	□ 決意が十分みられる
2	□ 認識している	□ 理解している	□ 受容や表明をしている	□ 理解している	□ 決意がみられる	□ 決意がみられる
1	□ 認識が不十分である	□ 理解が不十分である	□ 受容や表明が不十分である	□ 理解が不十分である	□ 決意が不十分である	□ 決意が不十分である
0	□ 認識していない	□ 理解していない	□ 受容や表明をしていない	□ 理解していない	□ 決意がみられない	□ 決意がみられない
着目表現（表現例及び評価の目安を参考に該当表現を抽出すること）	± 被害者の生命に関する記述	± 身体的被害に関する記述	± 自己の責任に関する記述	± 事件当時の対応に関する記述	± 具体的な謝罪に関する記述	± 再加害防止に関する記述
		± 精神的被害に関する記述				
	± 事件の重大性に関する記述		± 罪悪感に関する記述	± 自己の問題性に関する記述	± 具体的な弁償等に関する記述	± 更生や社会復帰に関する記述
		± 生活全般の被害に関する記述				
					←弁償等の有・無	
	± その他特記すべき表現等	± その他特記すべき表現等	± その他特記すべき表現等	± その他特記すべき表現等	± その他特記すべき表現等	± その他特記すべき表現等

全体で特記すべき事項・表現等		合計	点	総合	A・B・C・D・E

総合評価は「**A:18-16点　B:15-12点　C:11-8点　D:7-4点　E:3-0点**」とする。C評価以上に該当していても，⑤，⑥以外の項目で0点の項目が一つでもあった場合はD評価とする（⑤，⑥についても1点以上であることが望ましいが，事件の性質や文章の構成によっては必ずしも減点要素とはできないため）。

別添資料3

RL評価観点表（採点の基準）

	① 事件の重大性の認識	② 被害者等の実情の理解	③ 責任の受容及び罪悪感の表明	④ 自己の問題性の理解	⑤ 具体的な謝罪・弁償の決意	⑥ 再加害防止への決意
採点の基準	**3点** ・多様で具体性のある「＋」表現が三つ以上あるか，又は二つ以下であるが，3通をとおして本項目について十分考えることができていると判断される。 ・「－」表現で「＋」表現の効果が損なわれない。 ・生命犯では，「被害者の生命に関する記述」が一つ以上ある。	**3点** ・多様で具体性のある「＋」表現が三つ以上あるか，又は二つ以下であるが，3通をとおして本項目について十分考えることができていると判断される。 ・「－」表現で「＋」表現の効果が損なわれない。 ・実情等を理解しようとする上で，被害者等の心情への配慮が見られる。	**3点** ・多様で具体性のある「＋」表現が三つ以上あるか，又は二つ以下であるが，3通をとおして本項目について十分考えることができていると判断される。 ・「－」表現で「＋」表現の効果が損なわれない。 ・「責任の受容」と「罪悪感の表明」の両方について，「＋」表現がある。	**3点** ・多様で具体性のある「＋」表現が三つ以上あるか，又は二つ以下であるが，3通をとおして本項目について十分考えることができていると判断される。 ・「－」表現で「＋」表現の効果が損なわれない。 ・事件を起こすに至った自己の問題性を掘り下げて考えることができている。	**3点** ・多様で具体性のある「＋」表現が三つ以上あるか，又は二つ以下であるが，3通をとおして本項目について十分考えることができていると判断される。 ・「－」表現で「＋」表現の効果が損なわれない。 ・弁償の有無に関する部分が実態に即した内容となっている。	**3点** ・多様で具体性のある「＋」表現が三つ以上あるか，又は二つ以下であるが，3通をとおして本項目について十分考えることができていると判断される。 ・「－」表現で「＋」表現の効果が損なわれない。 ・更生や社会復帰の観点を十分に踏まえた内容となっている。
	2点（3点の条件には満たない） ・「－」表現により効果が損なわれない「＋」表現が二つあるか又は一つであるが具体性が十分にある。	**2点**（3点の条件には満たない） ・「－」表現により効果が損なわれない「＋」表現が二つあるか又は一つであるが具体性が十分にある。	**2点**（3点の条件には満たない） ・「－」表現により効果が損なわれない「＋」表現が二つあるか又は一つであるが具体性が十分にある。	**2点**（3点の条件には満たない） ・「－」表現により効果が損なわれない「＋」表現が二つあるか又は一つであるが具体性が十分にある。	**2点**（3点の条件には満たない） ・「－」表現により効果が損なわれない「＋」表現が二つあるか又は一つであるが具体性が十分にある。	**2点**（3点の条件には満たない） ・「－」表現により効果が損なわれない「＋」表現が二つあるか又は一つであるが具体性が十分にある。
	1点（2点の条件には満たない） ・「＋」表現が一つあり，「＋」表現を全否定するような「－」表現がない。	**1点**（2点の条件には満たない） ・「＋」表現が一つあり，「＋」表現を全否定するような「－」表現がない。	**1点**（2点の条件には満たない） ・「＋」表現が一つあり，「＋」表現を全否定するような「－」表現がない。	**1点**（2点の条件には満たない） ・「＋」表現が一つあり，「＋」表現を全否定するような「－」表現がない。	**1点**（2点の条件には満たない） ・「＋」表現が一つあり，「＋」表現を全否定するような「－」表現がない。	**1点**（2点の条件には満たない） ・「＋」表現が一つあり，「＋」表現を全否定するような「－」表現がない。
	0点 ・「＋」表現が全くないか，「－」表現が「＋」表現を全否定している。	**0点** ・「＋」表現が全くないか，「－」表現が「＋」表現を全否定している。	**0点** ・「＋」表現が全くないか，「－」表現が「＋」表現を全否定している。	**0点** ・「＋」表現が全くないか，「－」表現が「＋」表現を全否定している。	**0点** ・「＋」表現が全くないか，「－」表現が「＋」表現を全否定している。	**0点** ・「＋」表現が全くないか，「－」表現が「＋」表現を全否定している。

総合評価は「**A:18-16点　B:15-12点　C:11-8点　D:7-4点　E:3-0点**」とする。C評価以上に該当していても，⑤，⑥以外の項目で0点の項目が一つでもあった場合はD評価とする（⑤，⑥についても1点以上であることが望ましいが，事件の性質や文章の構成によっては必ずしも減点要素とはできないため）。

別添資料3
評価上の留意点

	① 事件の重大性の認識	② 被害者等の実情の理解	③ 責任の受容及び罪悪感の表明	④ 自己の問題性の理解	⑤ 具体的な謝罪・弁償の決意	⑥ 再加害防止への決意
評価上の留意点	●事件を起こした時点に関する記述や，事件そのものを総括する記述として，該当する表現を抽出することが望ましい。 ●被害者のけがの具合など，具体的な事実と合致しているか否かによって評価が分かれる部分は，可能な範囲で事実を確認した上で評価する。 ●生命犯については，特に被害者の命を奪ったことの重大性に関する記述の有無にも着目する。	●①が事件当時の記述に重点を置くのに対し，本項目は事件後や現在の被害者の置かれた状況に主に着目する。 ●2通目のRLは，本項目に関する受講者の認識を投影したものであるととらえることができるため，2通目から抽出できる表現は本項目に該当するものが多い。 ●死亡した被害者あてのRLについては，手紙の相手がこの世に存在しないため「実情」になじまないものが多いが，2通目などにおける想像上の被害者の心情等や遺族の実情に関する記述も含めて広めに抽出することが望ましい。	●「ごめんなさい」など罪悪感の表明を何度も繰り返している場合は，複数の表現があっても，段落や内容的なまとまりごとに1回と数えることが適当である（①～⑥の他の項目についても，同じような表現が狭い範囲で反復して使用されている場合は，それらをまとめて1回と数えることが適当である）。 ●自らの受容する責任の範囲を限定している場合があるが，これらをすべて否定的に評価するのではなく，事実関係を踏まえて適切に評価する必要がある。	●問題性について具体的に記述できていなくても，事件当時に取るべきだった行動又は事件に至った自己の問題性について目を向け，考えようとする姿勢が見られる記述があれば，最低1点は付与することが望ましい。 ●事件への「後悔」に関する記述でもあっても，自己の問題性に関連するような具体性のある記述につながっていれば，本項目として抽出することができる。	●実際に被害弁償を行っていれば，弁償等に関する具体的な記述がなくても，謝罪や弁償に関する否定的な記述がない限り，最低1点は付与することが望ましい。 ●被害者が親族など親しい者である場合は，出所後の具体的な謝罪や弁償の表現が見られないことがあるが，それだけをもって総合評価を下げることはしない（小計0点が出現する可能性がある理由）。 ●直接被害者に対する謝罪や弁償行為ではないが，「償い」としてボランティアや社会貢献などに参加する意思を述べているものについては，文脈から妥当であると判断できれば，本項目として抽出することができる。	●事件の内容や性質上，同様の事件を起こすことが想定しにくい場合や，受講者が再加害や再犯をしないことを前提に文章を作成していると思われる場合などは，本項目に該当する表現が見られないこともあるが，それだけをもって総合評価を下げることはしない（小計0点が出現する可能性がある理由）。 ●具体的な再加害や再犯に関する記述でなくとも，それにつながるような更生や社会復帰に対する決意を述べている表現は本項目として抽出することができる。

総合評価は「**A:18-16点　B:15-12点　C:11-8点　D:7-4点　E:3-0点**」とする。C評価以上に該当していても，⑤，⑥以外の項目で0点の項目が一つでもあった場合はD評価とする（⑤，⑥についても1点以上であることが望ましいが，事件の性質や文章の構成によっては必ずしも減点要素とはできないため）。

別添資料４
第二次調査票１～３及び
対象者情報記入票

整理番号

調査票１

次のページには，同じ言葉がたくさん並んでいます。その言葉を読んで，思いついたことを書いて文章を完成させてください。

思いついたことを，そのまま自由に書いてください。どのように書いても正解や間違いはありません。

ただし，一度作った文章と<u>同じ文章を作ってはいけません</u>。

（例）

１ 空 は，きれいだ

２ 空 を見たい。

（制限時間　１５分）

「始め」の合図があるまで，待ってください。

「やめ」の合図があったら，回答をやめてください。

1 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
2 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
3 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
4 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
5 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
6 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
7 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
8 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
9 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
10 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
11 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
12 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
13 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
14 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
15 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
16 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
17 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
18 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
19 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿
20 被害者＿＿＿＿＿＿＿＿

21 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

22 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

23 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

24 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

25 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

26 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

27 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

28 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

29 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

30 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

31 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

32 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

33 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

34 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

35 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

36 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

37 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

38 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

39 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

40 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

41 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

42 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

43 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

44 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

45 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

46 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

47 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

48 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

49 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

50 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

51 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

52 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

53 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

54 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

55 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

56 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

57 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

58 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

59 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

60 被害者（ひがいしゃ）＿＿＿＿

受講
前・後

整理番号

調査票2

これから，あなたに質問に答えていただきます。

質問の内容は，今回のあなたの事件や，その事件の被害者やその家族の方々などについてです。

質問に対する回答は，あなたにとって当てはまるものを選ぶ形式です。あなたにとって最も当てはまるものに，○をつけてください。

> あなたが答えたアンケートの内容を，あなたに対する教育の参考にすることはありますが，あなたの答えを他の受刑者に知らせるなど，あなたにとって不利益なことをすることはありません。また，正解や間違いはありません。あなたの思ったとおりに答えてください。

1　あなたは，最近，次の文章のように思うことが，どのくらいありましたか。それぞれ，「そう思うことは一度もなかった」「まれにそう思うことがあった」「ときどきそう思うことがあった」「しばしばそう思うことがあった」「いつもそう思っていた」の中で，当てはまるものに○をつけてください。

【回答例】

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
例	刑務所での生活はつらい。	1	2	3	(4)	5

【質問はここからです】

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
1	今回の自分の事件は，被害者に原因があった。	1	2	3	4	5
2	今回の事件のことを，一生忘れてはいけない。	1	2	3	4	5

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
3	今回の自分の事件で，自分よりももっと悪い人はいるのに，自分ばかり責められるのは納得がいかない。	1	2	3	4	5
4	被害者と加害者の 間 の問題であるのに，支援団体など他人が被害者に味方して応援するのは，不公平だ。	1	2	3	4	5
5	被害者の痛みや苦しみよりも，仲間や大切な人との関係の方が，自分にとって大切だ。	1	2	3	4	5
6	今回の自分の事件は，いろいろな事情で仕方なくやってしまった。	1	2	3	4	5
7	刑務所に入って 償 っているので，被害者への謝罪や被害弁償の必要はない。	1	2	3	4	5
8	今回の自分の事件で，自分のことを悪いと言う人も裏では悪いことをしているはずで，自分のことだけを悪いと言うのはおかしい。	1	2	3	4	5
9	被害者やその家族は，刑が決まってからも長々と加害者の責任を追 及するのはおかしい。	1	2	3	4	5

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
10	他人を傷つけることになっても，仲間や大切な人のために行動しないといけない。	1	2	3	4	5
11	今回の自分の事件は，被害者も責められて当たり前である。	1	2	3	4	5
12	今回の事件とこれからずっと向き合わなければいけない。	1	2	3	4	5
13	世の中にはもっと悪い人はいるのに，今回の事件で自分がこれほど責められるのはおかしい。	1	2	3	4	5
14	被害者やその家族が被害者支援団体に頼るといつまでも事件のことに縛られて，かえって被害から回復しないと思う。	1	2	3	4	5
15	仲間や先輩のためなら，他人を傷つけても仕方がない。	1	2	3	4	5
16	今回の事件は，被害者が悪いから起こったのだと思う。	1	2	3	4	5
17	いくら謝罪や被害弁 償 をしても，被害者やその家族から許してもらうのは 難 しいと思うが，それでもできる限りのことはしたいと思う。	1	2	3	4	5

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
18	事情も知らずに今回の事件のことで自分のことばかりを責める人たちは，間違っている。	1	2	3	4	5
19	被害者やその家族が裁判で気持ちを訴えることで，刑が重くなることがあるとしたなら，納得がいかない。	1	2	3	4	5
20	仲間や大切な人を助けることになったとしても，人を傷つけることは許されない。	1	2	3	4	5
21	自分の仲間や友達などを守るために，今回の事件を起こした。	1	2	3	4	5
22	謝罪や被害弁償が不十分でも，年月が経てば被害者側は事件の記憶が薄れ，立ち直ることができるだろう。	1	2	3	4	5
23	今回の自分の事件で，自分のことを悪いと言われると，あなただって悪いことをしたことがあるでしょうと言いたくなる。	1	2	3	4	5
24	裁判などにおいて，被害者の権利は既に認められすぎており，そのことでむしろ加害者の権利を侵害していると思う。	1	2	3	4	5
25	仲間や大切な人とのつながりを守るためには，他人を傷つけてしまうのはやむを得ない。	1	2	3	4	5
26	今回の自分の事件は，自分よりもむしろ被害者の方が責められるべきだ。	1	2	3	4	5
27	たとえ刑罰を受けていても，被害者から許してもらえるまで罪を背負って謝罪し，被害弁償するのは当然のことだと思う。	1	2	3	4	5
28	被害者やその家族の気持ちは，マスコミの報道や，取調べ，裁判などを通して，十分分かっていると思う。	1	2	3	4	5
29	今回の自分の事件での行動をやっていなかったら，自分が危なかった。	1	2	3	4	5
30	被害者の視点を取り入れた教育を受けている間に，事件，被害，被害者やその家族についてもう一度よく考えて，出所後にどのように謝罪して，被害弁償するかをはっきりさせたい。	1	2	3	4	5

2　あなたは，最近，次の文章のような状態になることが，どのくらいありましたか。それぞれ，「そう思うことは一度もなかった」「まれにそう思うことがあった」「ときどきそう思うことがあった」「しばしばそう思うことがあった」「いつもそう思っていた」の中で，当てはまるものに○をつけてください。

【回答例】

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
例	雨が降っていると，悲しい気分になる。	1	②（○）	3	4	5

【質問はここからです】

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
1	こんな犯罪をやった自分が生きていることを後ろめたく感じる。	1	2	3	4	5

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
31	今回の事件については，もう済んだことなのだから，何度も蒸し返すことはしないでほしい。	1	2	3	4	5
32	今回の事件のことは，自分と被害者の問題だから，被害者の家族の考えや気持ちは関係ない。	1	2	3	4	5

質問は次のページに続きます。

		そう思うことは一度もなかった	まれにそう思うことがあった	ときどきそう思うことがあった	しばしばそう思うことがあった	いつもそう思っていた
2	被害者やその家族のことを考えると自分はこれから幸せをつかんではいけないと思う。	1	2	3	4	5
3	被害者やその家族に対して，自分が生きていることについて申し訳なく思う。	1	2	3	4	5
4	被害者やその家族より自分がいい思いをしているようですまないと感じる。	1	2	3	4	5
5	自分がこうして生活できていることは何か間違っていていけないことのように思える。	1	2	3	4	5
6	被害者やその家族より自分の方が得をしているようで心苦しい。	1	2	3	4	5
7	事件のことが胸にひっかかっていて，物事に積極的に取り組めない。	1	2	3	4	5

質問は次のページに続きます。

3　被害者やその家族に謝りたいとか償いたいと思う際の理由として，これから挙げる理由をそれぞれどのように思いますか。それぞれ，「全くそう思わない」「そう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「そう思う」「非常にそう思う」で答えてください。

【回答例】

		全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	非常にそう思う
例	自分の気持ちをきちんと伝えたいから。	1	2	3	(4)	5	6

【質問はここからです】

		全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	非常にそう思う
1	自分や身近な人への風当たりをやわらげるため。	1	2	3	4	5	6
2	自分がやってしまったことに責任をとる必要があるから。	1	2	3	4	5	6
3	自分に対する印象が良くなるから。	1	2	3	4	5	6
4	人として当然のことだから。	1	2	3	4	5	6

		全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	非常にそう思う
5	仮釈放など，自分の刑を軽くしてもらうため。	1	2	3	4	5	6
6	本当にひどいことをしてしまったと思うので。	1	2	3	4	5	6
7	やるべきことをやって，早くこの事件を終わりにするため。	1	2	3	4	5	6
8	本当に傷つけてしまったと思うので。	1	2	3	4	5	6
9	被害者やその家族からのいやがらせをされないため。	1	2	3	4	5	6
10	周りからあれこれ言われないため。	1	2	3	4	5	6

質問は次のページに続きます。

4

（1）今，あなたが被害者やその家族に謝罪や被害弁償を行う気持ちはどのくらいありますか。

「全くない」，「ない」，「少しある」，「ある」，「非常にある」の中で，あなたの今の気持ちに当てはまる記号（ア～オ）に○をつけてください。

ア　全くない
イ　ない
ウ　少しある
エ　ある
オ　非常にある

（2）今後あなたが被害者やその家族に謝罪や被害弁償を行う際に，次のような状況になったとき，謝罪や被害弁償を続けていく自信や覚悟がどの程度ありますか。それぞれ「全くない」，「ない」，「少しある」，「ある」，「非常にある」の中で，あなたに当てはまるものを選んでください。

【回答例】

		全くない	ない	少しある	ある	非常にある
例	自分が重い病気になり，多額の金銭が必要となったとき	1	2	3	④	5

【質問はここからです】

		全くない	ない	少しある	ある	非常にある
1	謝罪に行ったものの，許してくれなかったとき。	1	2	3	4	5
2	手紙で謝罪したのに，手紙が返送されてきたとき。	1	2	3	4	5
3	要求された損害賠償額が多額で，一生かけても払えそうにないとき。	1	2	3	4	5
4	失業するなどして，被害弁償するメドがつかなくなったとき。	1	2	3	4	5
5	自分の大切な人のために，多額の金銭を費やす必要ができたとき。	1	2	3	4	5
6	今回の事件とは別に，自分の生きる目標ができたとき。	1	2	3	4	5
7	どんなに償っても被害者やその家族に許してもらえないと感じたとき。	1	2	3	4	5
8	自分につらいことが起こって，気分が沈みがちになってしまったとき。	1	2	3	4	5
9	被害者やその家族に，ののしられたとき。	1	2	3	4	5
10	被害者やその家族が自分の言い分を聞いてくれなかったとき。	1	2	3	4	5
11	同じようなことをした人で，もっとたやすく被害者に許してもらえている人もいるのに，自分はなかなか許してもらえないと分かったとき。	1	2	3	4	5

これで調査票２は終わりです。お疲れ様でした。

受講
前・後

整理番号

調査票３

これから，あなたに想像上の手紙のやり取りをしていただきます。これは，あなた自身が自分と誰か別の人の立場になって，「自分から相手へ」，「相手から自分へ」というように手紙を書くものです。

今回は，あなたの事件の被害者の方又は被害者の家族（遺族）の方と想像上の手紙のやり取りをしていただきます。

○ 手紙を，被害者の方や被害者の家族（遺族）の方に実際に見せることはありません。

○ あなたが書いた手紙の内容を，あなたに対する教育の参考にすることはありますが，手紙の内容を他の受刑者に知らせるなど，あなたにとって不利益なことをすることはありません。

あなたが書こうと思ったことを自由に書いてください。

それでは，想像上の手紙のやり取りをしていただきます。

手紙の相手は，

① 被害者の方（死亡している方に書いてもかまいません。）

② 被害者の家族（遺族）の方

のどちらかです。

どちらを相手にするかは，あなたが決めます。被害者の方や被害者の家族（遺族）の方が複数いる場合は，その中の一人に決めてください。

あなたが手紙を書く相手に○をつけてください。

	① 被害者の方
	② 被害者の家族（遺族）の方

《 ➡ どちらかに○をつけてください。》

手紙は全部で３通書いていただきます。１通目から順に書きます。

１通目　あなたから相手へ

２通目　相手からあなたへ

３通目　あなたから相手へ

まず，あなたから相手の方に手紙を書いてください。書かなければいけないことや，書いてはいけないことはありません。正解や間違いといったこともありません。難しく考えないで，自分の言葉で相手への気持ちを自由に書いてください。あなたの思うままを書いてください。

手紙を書く前に，これから手紙を書く被害者又は被害者の家族（遺族）の方についてうかがいます。当てはまるものに○をつけてください。

質問1　これから手紙を書く相手の方に，謝罪の気持ちは伝えていますか。

ア　直接会って，気持ちを伝えている。

イ　直接会っていないが，手紙や電話で伝えた。

ウ　自分が伝えてはいないが，親や弁護士などの代理の人に伝えてもらった。エ　伝えていない。

質問2　これから手紙を書く相手の方に対して，金銭の支払い（賠償金，示談金など名目は問いません）はしましたか。

ア　支払う必要がある金額はすべて支払った

イ　支払う必要がある金額の一部を支払った

ウ　全く支払っていない

質問3　これから手紙を書く相手の様子や気持ちを知っていますか。

ア　よく知っている　→質問4に

イ　少し知っている　→質問4に

ウ　あまり知らない

エ　まったく知らない

質問4　（質問3で「よく知っている」，「少し知っている」と答えた人について）相手のどのようなことを知っていますか。簡単に答えてください。

それでは次のページから手紙を書いてください。

1通目　あなたから相手へ

（A 4 用紙 3 枚分）
～（省略）～

（足りない場合は，用紙の裏につづきを書いてください。）

では，次に，相手からあなたへの手紙を書いていただきます。

あなたの手紙を読んだ相手が，どのような手紙をあなたに書くかを想像して書いてみてください。正解や間違いはありません。あなたが想像したとおりに，自由に書いてください。

2通目　相手からあなたへ

（A 4 用紙 3 枚分）
～（省略）～

（足りない場合は，用紙の裏につづきを書いてください。）

では，最後に，相手からの手紙を読んだあなたの返事を相手にあてて書いてください。

相手へのあなたの素直な気持ちを自由に書いてください。

３通目　あなたから相手へ

（Ａ４用紙３枚分）
～（省略）～

（足りない場合は，用紙の裏につづきを書いてください。）

お疲れ様でした。調査終了です。ご協力ありがとうございました。

対象者情報記入票【受講開始時】

施設名

○ 基本情報

1	整理番号				
2	調査日（受講開始時）	西暦	年	月	日
3	性別【男性：１，女性：２】				
4	生年月日	西暦	年	月	日
5	刑名・刑期	刑名	懲役 ・ 禁固	刑期	
6	刑期起算日	西暦	年	月	日
	刑期終了日	西暦	年	月	日
7	処遇指標・符号【例：(V0, R0, R4) Am】				
8	犯数・入所度数			犯	入

○ 事件・被害者関連情報

9	罪名【別表１の番号で記入】			
10	死亡被害者数			
11	死亡被害者【①の番号が小さいものから順に５名分】【②暴力的行為は，被害者から本人への暴力的行為の有無を記載】		①関係	②暴力的行為
		A		
		B		
		C		
		D		
		E		
12	非死亡被害者数			
13	非死亡被害者【被害の程度が重いものから順に５名分】【②暴力的行為は，被害者から本人への暴力的行為の有無を記載】		①関係	②暴力的行為
		A		
		B		
		C		
		D		
		E		
14	共犯者の人数			
15	被害弁償の状況【番号で記入】			
16	本件事件の特徴【別表２の番号で記入】			
17	事件発生年月	西暦	年	月

○ 生活関連情報

18	IQ						
19	MJPIのT得点	虚構（Li）		偏向（De）		自我防衛（Ed）	
20	精神疾患【なし：0，あり：具体的な疾患を記入】						
21	自殺歴【なし：0，あり：1】						
22	懲罰歴【入所から調査日までの間の戒告を除く受罰回数】						

○ 保護環境

23	保護環境の状況【番号で記入】	

○ 教育受講状況（R4除く）

24	処遇類型別指導（生命関連）の受講の有無【なし：0，あり：1】	
25	特別改善指導の受講【受講ありの場合，R1～6の数字を列挙】	
26	一般改善指導（被害者感情理解指導）の受講【内容に応じて番号を記入】	
27	宗教教誨の実施の有無【なし：0，あり：1】	
28	月命日供養の実施の有無【なし：0，あり：1】	
29	篤志面接の実施の有無【なし：0，あり：1】	

○ 指導前の姿勢

30	他人の話を聞く姿勢【5段階評価で記入】	
31	R4受講に対する積極性【5段階評価で記入】	

対象者情報記入票【受講終了時】

施設名	

○ 基本情報

1	整理番号				
2	調査日（受講終了時）	西暦	年	月	日
3	性別【男性：1，女性：2】				
4	生年月日	西暦	年	月	日

○ 生活関連情報

5	懲罰歴【受講開始時の調査日から本調査日までの間の戒告を除く受罰回数】	

○ 保護環境

6	保護環境の状況【番号で記入】	

○ 教育受講状況（R4除く）【受講開始時の調査日から本調査日までの状況】

7	特別改善指導の受講【受講ありの場合，R1～6の数字を列挙】	
8	一般改善指導（被害者感情理解指導）の受講【内容に応じて番号を記入】	
9	宗教教誨の実施の有無【なし：0，あり：1】	
10	月命日供養の実施の有無【なし：0，あり：1】	
11	篤志面接の実施の有無【なし：0，あり：1】	

○ R4受講状況

12	R4の修了状況【番号で記入】			
13	修了しなかった理由【番号で記入】			
14	R4受講開始年月	西暦	年	月
15	R4受講修了（ドロップアウト）年月	西暦	年	月
16	R4実受講単元数			
17	R4実受講時間			
18	参加集団の構成人員			

○ R4内容・受講状況

19	総単元数	
20	被害者関係者の参加の有無と属性【参加した関係者の属性を列挙】	
21	被害者（遺族）との対話・講話の単元数【実施した単元の数を記入】	
22	ビデオ視聴の単元数【実施した単元の数を記入】	
23	録音教材視聴の単元数【実施した単元の数を記入】	
24	グループワークの単元数【実施した単元の数を記入】	
25	ロールレタリングの単元数【実施した単元の数を記入】	
26	今後の生活設計についての指導の単元数【実施した単元の数を記入】	
27	受講時の聞く姿勢【5段階評価で記入】	
28	受講時の発言状況【5段階評価で記入】	
29	受講修了時の評価【5段階評価で記入】	

別添資料５

第二次調査における対象者情報まとめ
【受講開始時】

○　基本情報

受講人数

	開始時	終了時
男性	263	252
女性	32	32
合計	295	284

刑期

	人数	割合
0～4年	175	59.3%
5～9年	107	36.3%
10～14年	6	2.0%
15～20年	3	1.0%
無期	4	1.4%
合計	295	100.0%

刑期起算日からの期間

	年
平均	2.3
最大	27.3
最小	0.3
標準偏差	2.70

刑期終了日までの期間

	年
平均	2.2
最大	29.0
最小	0.3
標準偏差	2.50

主な処遇指標（複数回答）

	人数	割合
R１	11	3.7%
R２	9	3.1%
R３	0	0.0%
R４	272	92.2%
R５	121	41.0%
R６	35	11.9%
E１	3	1.0%
E２	1	0.3%

入所度数

	入
平均	1.2
最大	10
最小	1
標準偏差	0.98

○　保護環境

保護環境の状況（開始時）

	人数	割合
受入れ可	246	83.4%
受入れ不可	28	9.5%
その他	21	7.1%
合計	295	100.0%

○　事件・被害者関連情報

罪名

	人数	割合
強盗致死	2	0.7%
強盗致傷	11	3.7%
強盗	4	1.4%
強盗強姦	2	0.7%
殺人	62	21.0%
自殺関与・同意殺人	2	0.7%
傷害致死	56	19.0%
傷害	18	6.1%
危険運転致死	7	2.4%
危険運転致傷	3	1.0%
業務上過失致死	18	6.1%
業務上過失致傷	4	1.4%
自動車運転過失致死	76	25.8%
自動車運転過失致傷	15	5.1%
その他	10	3.4%
不詳	5	1.7%
合計	295	100.0%

死亡被害者数

	人数	割合
なし	84	28.5%
1人	198	67.1%
2人	9	3.1%
3人	3	1.0%
4人	1	0.3%
合計	295	100.0%

非死亡者数

	人数	割合
なし	176	59.7%
1人	78	26.4%
2人	16	5.4%
3人	13	4.4%
4人	5	1.7%
5人以上	7	2.4%
合計	295	100.0%

共犯者数

	人数	割合
なし	233	79.0%
1人	14	4.7%
2人	20	6.8%
3人	7	2.4%
4人	5	1.7%
5人以上	11	3.7%
不詳	5	1.7%
合計	295	100.0%

被害弁償の状況

	人数	割合
実施済み	67	22.7%
実施中	45	15.3%
未実施	159	53.9%
不明	24	8.1%
合計	295	100.0%

別添資料５

第二次調査における対象者情報まとめ

受講開始時本件事件の特徴（複数回答）

	人数	割合
金銭等の利益目的	38	12.9%
事件発覚等を防ぐ目的	14	4.7%
性的な動機	4	1.4%
愛憎・嫉妬など	49	16.6%
嬰児殺	6	2.0%
暴力団等の反社会的集団	14	4.7%
反復性や常習性あり	19	6.4%
飲酒・薬物等の影響下	70	23.7%
虐待	11	3.7%
介護疲れなど先行き悲観	18	6.1%
衝動的な事件	76	25.8%
計画的な事件	34	11.5%
交通関係事件	128	43.4%
自己防衛・被害回避	21	7.1%
否認事件	4	1.4%

事件発生からの経過期間

	年
平均	3.6
最大	42.7
最小	0.7
標準偏差	3.72

○ 生活関連情報

IQ

	人数	割合
69未満	47	15.9%
70 ～ 99	217	73.6%
100以上	31	10.5%
合計	295	100.0%

精神疾患

	人数	割合
なし	270	91.5%
あり	25	8.5%
合計	295	100.0%

自殺歴

	人数	割合
なし	263	89.2%
あり	32	10.8%
合計	295	100.0%

懲罰回数（開始時）

	人数	割合
なし	196	66.4%
1回	53	18.0%
2回	23	7.8%
3回	7	2.4%
4回	6	2.0%
5回以上	10	3.4%
合計	295	100.0%

○ 教育受講状況（R４を除く）

特別改善指導（開始時）

	人数	割合
なし	208	70.5%
あり	87	29.5%
合計	295	100.0%

処遇類型別指導（生命関連）の受講（開始時）

	人数	割合
なし	292	99.0%
あり	3	1.0%
合計	295	100.0%

一般改善指導（被害者感情理解指導）の受講（開始時）

	人数	割合
受講なし	93	31.5%
被害者又は遺族等の講話	27	9.2%
他の被害者感情理解指導	75	25.4%
上記二つを両方受講	95	32.2%
不詳	5	1.7%
合計	295	100.0%

宗教教誨の実施（開始時）

	人数	割合
なし	179	60.7%
あり	116	39.3%
合計	295	100.0%

月命日供養の実施（開始時）

	人数	割合
なし	203	68.8%
あり	92	31.2%
合計	295	100.0%

篤志面接の実施（開始時）

	人数	割合
なし	281	95.3%
あり	14	4.7%
合計	295	100.0%

○ 指導前の姿勢

他人の話を聞く姿勢（5段階評価）

評　価		人数	割合
非常に悪い	1	3	1.0%
↓	2	18	6.1%
普　通	3	200	67.8%
↓	4	68	23.1%
非常に良い	5	6	2.0%
合計		295	100.0%

受講に対する積極性（5段階評価）

評　価		人数	割合
非常に消極的	1	7	2.4%
↓	2	25	8.5%
普　通	3	192	65.1%
↓	4	55	18.6%
非常に積極的	5	16	5.4%
合計		295	100.0%

別添資料５

第二次調査における対象者情報まとめ
【受講終了時】

○　生活関連情報

懲罰回数（終了時）

	人数	割合
なし	243	85.6%
1回	31	10.9%
2回	9	3.2%
3回	0	0.0%
4回	0	0.0%
5回	1	0.4%
合計	284	100.0%

○　保護環境

保護環境の状況（終了時）

	人数	割合
受入れ可	245	86.3%
受入れ不可	25	8.8%
その他	14	4.9%
合計	284	100.0%

○　教育受講状況（Ｒ４を除く）

特別改善指導（終了時）

	人数	割合
なし	217	76.4%
あり	67	23.6%
合計	284	100.0%

特別改善指導の種類（開始時及び終了時：複数回答）

	人数	割合
Ｒ１	5	1.7%
Ｒ２	3	1.0%
Ｒ３	0	0.0%
Ｒ５	119	40.3%
Ｒ６	27	9.2%

一般改善指導（被害者感情理解指導）の受講（終了時）

	人数	割合
受講なし	189	66.5%
被害者又は遺族等の講話	7	2.5%
他の被害者感情理解指導	72	25.4%
上記二つを両方受講	11	3.9%
不詳	5	1.8%
合計	284	100.0%

宗教教誨の実施（終了時）

	人数	割合
なし	179	63.0%
あり	105	37.0%
合計	284	100.0%

月命日供養の実施（終了時）

	人数	割合
なし	221	77.8%
あり	63	22.2%
合計	284	100.0%

篤志面接の実施（終了時）

	人数	割合
なし	276	97.2%
あり	8	2.8%
合計	284	100.0%

○　Ｒ４受講状況

Ｒ４の修了状況

	人数	割合
修了	262	92.3%
未修了	22	7.7%
合計	284	100.0%

未修了の理由

	人数	割合
仮釈放	2	9.1%
調査・懲罰	5	22.7%
病気休養	1	4.5%
その他	14	63.6%
合計	22	100.0%

受講単元数

単元数	人数	割合
１～４	8	2.8%
５～９	106	37.3%
10～14	158	55.6%
15～20	12	4.2%
合計	284	100.0%

構成人員

	人数	割合
3名以下	11	3.9%
4名	40	14.1%
5名	57	20.1%
6名	46	16.2%
7名	26	9.2%
8名	64	22.5%
9名	40	14.1%
合計	284	100.0%

○　Ｒ４内容・受講状況

総単元数

単元数	人数	割合
４～７	27	9.5%
８～11	130	45.8%
12，13	109	38.4%
18以上	18	6.3%
合計	284	100.0%

被害者関係者の参加（複数回答）

参加者	人数	割合
なし	140	49.3%
被害者遺族	59	20.8%
被害者本人	3	1.1%
被害者団体	77	27.1%
その他	41	14.4%

別添資料５

第二次調査における対象者情報まとめ

被害者（遺族）との対話・講話

単元数	人数	割合
なし	216	76.1%
1	34	12.0%
2	12	4.2%
3	20	7.0%
4	2	0.7%
合計	284	100.0%

ビデオ視聴

単元数	人数	割合
なし	64	22.5%
1	135	47.5%
2	10	3.5%
3	21	7.4%
4	23	8.1%
5以上	31	10.9%
合計	284	100.0%

録音教材視聴

単元数	人数	割合
なし	205	72.2%
1	69	24.3%
2	10	3.5%
合計	284	100.0%

グループワーク

単元数	人数	割合
2以下	49	17.3%
3～5	116	40.8%
6～10	79	27.8%
11以上	40	14.1%
合計	284	100.0%

ロールレタリング

単元数	人数	割合
なし	70	24.6%
1	62	21.8%
2	106	37.3%
3	28	9.9%
4	1	0.4%
5以上	17	6.0%
合計	284	100.0%

生活設計についての指導

単元数	人数	割合
なし	53	18.7%
1	127	44.7%
2	50	17.6%
3	33	11.6%
4	5	1.8%
5以上	16	5.6%
合計	284	100.0%

受講時の聞く姿勢（5段階評価）

評　価		人数	割合
非常に悪い	1	1	0.4%
↓	2	9	3.2%
普　通	3	123	43.3%
↓	4	84	29.6%
非常に良い	5	67	23.6%
合計		284	100.0%

受講時の発言状況（5段階評価）

評　価		人数	割合
非常に消極的	1	4	1.4%
↓	2	25	8.8%
普　通	3	124	43.7%
↓	4	94	33.1%
非常に積極的	5	37	13.0%
合計		284	100.0%

受講終了時の評価（5段階評価）

評　価		人数	割合
E	1	0	0.0%
D	2	10	3.5%
C	3	138	48.6%
B	4	89	31.3%
A	5	44	15.5%
その他		3	1.1%
合計		284	100.0%

別添資料６　第二次調査における調査票１の分析結果

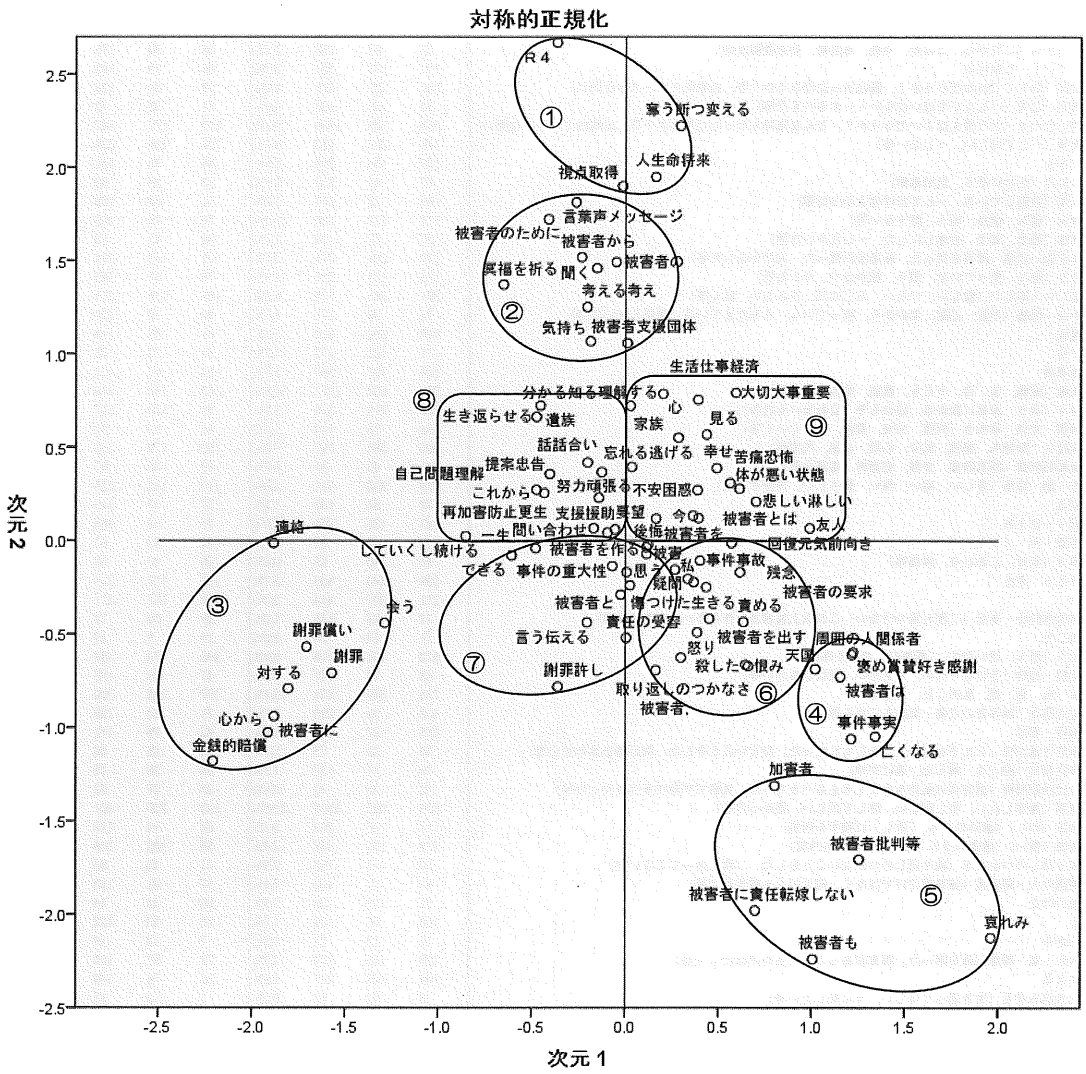
表1　第二次調査・抽出されたカテゴリー

カテゴリ番号	カテゴリ名（内容）	総反応数（合計：11793/ のべ567名）				該当反応産出人数（270名）				平均反応数		
		指導前	指導後	合計	%	指導前	指導後	合計	%	指導前	指導後	全体
1	（被害者の）ために	56	36	92	0.8%	26	24	50	9.3%	.19	.13	.16
2	これから（これから，この先，今後，出所後，社会復帰後等）	75	83	158	1.3%	56	59	115	21.3%	.25	.31	.28
3	していく・し続ける	102	132	234	2.0%	66	79	145	26.9%	.37	.49	.43
4	疑問（許してくれるだろうか？，傷は治っただろうか？等，比較的クローズドな問い）	251	222	473	4.0%	92	84	176	32.6%	.86	.82	.84
5	提案・忠告（～しなくてはいけない・～するべきだ等）	50	58	108	0.9%	31	39	70	13.0%	.16	.21	.19
6	問い合わせ（どう償えばよいだろうか？，どんな気持ちだっただろうか？等，比較的オープンな問い）	552	528	1080	9.2%	170	177	347	64.3%	1.94	1.95	1.94
7	要望（～してほしい，～したい等）	198	287	485	4.1%	108	130	238	44.1%	.68	1.04	.86
8	できる	139	154	293	2.5%	88	93	181	33.5%	.47	.57	.52
9	哀れみ（かわいそう，気の毒等）	67	41	108	0.9%	53	36	89	16.5%	.23	.15	.19
10	後悔（後悔している，～しておけばよかった等）	69	72	141	1.2%	51	54	105	19.4%	.24	.26	.25
11	恨み（恨む，憎む，呪う，許さない等）	114	122	236	2.0%	76	79	155	28.7%	.41	.44	.42
12	残念（残念，無念，台無しにした，～したかった等）	57	72	129	1.1%	38	45	83	15.4%	.21	.27	.24
13	体が悪い状態（障害を負った，後遺症が残った，大けがをした等）	170	201	371	3.1%	91	113	204	37.8%	.56	.74	.65
14	怒り（怒り，怒っている，憤り，腹が立つ，キレる等）	105	121	226	1.9%	76	87	163	30.2%	.35	.44	.39
15	悲しい・淋しい（悲しい，つらい，みじめだ，さみしい，泣く等）	361	365	726	6.2%	165	149	314	58.1%	1.27	1.34	1.30
16	不安・困惑（不安，心配，気がかり，困っている，うろたえている，動揺している等）	72	99	171	1.5%	49	72	121	22.4%	.24	.37	.30
17	遺族	218	392	610	5.2%	61	85	146	27.0%	.79	1.44	1.11
18	一生	71	102	173	1.5%	55	73	128	23.7%	.24	.37	.31
19	加害者	103	197	300	2.5%	54	67	121	22.4%	.36	.72	.54
20	家族（家族，父，母，子ども，親戚，親族，身内等）	664	607	1271	10.8%	183	182	365	67.6%	2.30	2.21	2.26
21	会う（会う，お目に掛かる，訪ねる等（会わないも含む））	166	210	376	3.2%	98	119	217	40.2%	.58	.78	.68
22	回復・元気・前向き（回復，元気，順調，うまくいく等）	64	76	140	1.2%	41	50	91	16.9%	.22	.28	.25
23	気持ち（気持ち，感情，気分，心理，心境，内面等）	382	385	767	6.5%	160	179	339	62.8%	1.30	1.40	1.35
24	金銭的賠償（損害賠償，弁償，慰謝料，保証金等）	41	46	87	0.7%	29	38	67	12.4%	.13	.17	.15
25	苦・痛・恐怖（苦しい，痛い，怖い，恐ろしい，苦労する等）	218	293	511	4.3%	110	146	256	47.4%	.74	1.08	.91
26	見る	78	84	162	1.4%	57	53	110	20.4%	.28	.31	.30
27	言う・伝える	127	131	258	2.2%	77	83	160	29.6%	.46	.49	.47
28	言葉・声・メッセージ	42	45	87	0.7%	31	32	63	11.7%	.15	.16	.16
29	幸せ（幸せ，しあわせ，幸福等）	35	40	75	0.6%	26	29	55	10.2%	.12	.15	.13
30	考える・考え	199	240	439	3.7%	107	127	234	43.3%	.67	.86	.76
31	今	211	207	418	3.5%	110	107	217	40.2%	.70	.76	.73
32	再加害防止・更生（二度と傷つけない，これ以上被害者を作らない，更生する等）	43	93	136	1.2%	29	50	79	14.6%	.13	.34	.24
33	殺した	11	13	24	0.2%	10	9	19	3.5%	.04	.04	.04
34	思う（思う，思い出す，（推測の）だろう等）	622	496	1118	9.5%	185	174	359	66.5%	2.16	1.83	1.99
35	支援・援助（力になりたい，支えたい，役に立ちたい等）	68	79	147	1.2%	47	58	105	19.4%	.24	.29	.26
36	私（私，俺，僕，私のこと，自分等）	735	689	1424	12.1%	197	183	380	70.4%	2.52	2.51	2.52
37	視点取得（被害者の立場・気持ちになる等）	102	98	200	1.7%	71	64	135	25.0%	.35	.36	.36
38	事件・事故	103	127	230	2.0%	62	79	141	26.1%	.36	.47	.41
39	事件の重大性（とんでもないことをしてしまった，ひどいことをした，深い傷を負わせた等）	50	29	79	0.7%	42	26	68	12.6%	.18	.10	.14
40	事件事実（殴った，刺した，逃げた等）	79	74	153	1.3%	38	38	76	14.1%	.28	.26	.27
41	自己問題理解（被害者の気持ちをよく考えるべきだった，見捨てず助けるべきだった等）	42	33	75	0.6%	25	27	52	9.6%	.15	.12	.14
42	謝罪（謝罪したい，申し訳ない，許してほしい，悪かった等）	805	822	1627	13.8%	232	229	461	85.4%	2.75	3.01	2.88
43	謝罪（許し）（謝罪のうち，「許し」に関する内容）	117	146	263	2.2%	84	94	178	33.0%	.41	.53	.47
44	謝罪（償い）（謝罪のうち「償い」に関する内容）	138	150	288	2.4%	86	102	188	34.8%	.50	.56	.53
45	取り返しのつかなさ（取り返しのつかないことをした，二度と戻ってこない等）	50	55	105	0.9%	41	42	83	15.4%	.18	.20	.19
46	周囲の人・関係者（被害者だけではなく，周りの人も被害者だ等）	85	77	162	1.4%	57	61	118	21.9%	.30	.28	.29
47	傷つけた	31	28	59	0.5%	20	24	44	8.1%	.10	.10	.10
48	心	106	93	199	1.7%	69	53	122	22.6%	.37	.34	.35
49	心から	11	12	23	0.2%	7	12	19	3.5%	.03	.04	.04
50	人生・命・将来（命を奪った，将来があった，人生の半ばだった等）	126	148	274	2.3%	78	87	165	30.6%	.43	.54	.49
51	生きる	104	123	227	1.9%	65	84	149	27.6%	.36	.46	.41
52	生き返らせる（生き返ってほしい，元に戻したい等）	6	12	18	0.2%	5	12	17	3.1%	.02	.04	.03
53	生活・仕事・経済（生活，日常，仕事，経済面，お金で苦労していないだろうか等）	195	246	441	3.7%	101	127	228	42.2%	.65	.90	.78
54	責める（責める，自責の念，責められた，非難された等）	10	20	30	0.3%	9	17	26	4.8%	.04	.07	.06
55	責任の受容（自分の責任だ，悪いのは僕だ，どんなに非難されても仕方ない等）	31	34	65	0.6%	20	28	48	8.9%	.10	.12	.11
56	対する	288	258	546	4.6%	114	102	216	40.0%	.97	.93	.95
57	大切・大事・重要	33	42	75	0.6%	27	33	60	11.1%	.11	.15	.13
58	奪う・断つ・変える（奪ってしまった，奪われた，断った，壊した，変わってしまった等）	97	92	189	1.6%	62	57	119	22.0%	.32	.33	.33
59	天国（天国，彼岸，あの世等）	16	17	33	0.3%	10	16	26	4.8%	.06	.06	.06
60	努力・頑張る（努力したい，頑張らねばならない，努めたい，精一杯やる等）	25	42	67	0.6%	20	34	54	10.0%	.08	.16	.12
61	被害	18	23	41	0.3%	14	17	31	5.7%	.06	.09	.07
62	被害者に責任転嫁しない（被害者は何も悪くない，非はない，責任はない等）	64	60	124	1.1%	46	49	95	17.6%	.21	.22	.22
63	被害者の視点を取り入れた教育（被害者教育，Ｒ４，被害者から学ぶ等）	13	28	41	0.3%	10	23	33	6.1%	.05	.10	.08
64	被害者の要求（被害者を主格とした，～して欲しい，～を望む，求める等）	38	58	96	0.8%	35	44	79	14.6%	.14	.21	.18
65	被害者を作る	24	43	67	0.6%	17	37	54	10.0%	.08	.16	.12
66	被害者を出す	35	21	56	0.5%	29	18	47	8.7%	.12	.08	.10
67	被害者支援団体（被害者の会，被害者の集まり，被害者同士の支え合い等）	10	12	22	0.2%	7	10	17	3.1%	.03	.04	.04
68	被害者批判等（被害者が悪い，同情の余地はない，信号無視をした等）	139	194	333	2.8%	45	36	81	15.0%	.49	.60	.54
69	分かる・知る・理解する	195	232	427	3.6%	102	126	228	42.2%	.66	.86	.76
70	聞く	36	45	81	0.7%	31	34	65	12.0%	.13	.16	.14
71	亡くなる（亡くなった，死んだ，息を引き取った，この世から旅立った等）	132	119	251	2.1%	87	83	170	31.5%	.45	.43	.44
72	忘れる・逃げる（忘れたい，逃げたい，忘れてはならない，逃げてはならない，向き合っていく等）	104	177	281	2.4%	67	109	176	32.6%	.34	.66	.50
73	冥福を祈る（手を合わせる，供養する，線香をあげる，宗教教誨等）	147	171	318	2.7%	84	104	188	34.8%	.53	.63	.58
74	友人	72	61	133	1.1%	51	41	92	17.0%	.25	.23	.24
75	褒め・賞賛・好き・感謝（優しい，愛している，尊敬，感謝している，恩返し等）	178	164	342	2.9%	73	61	134	24.8%	.62	.59	.61
76	連絡（連絡，手紙，電話等）	51	80	131	1.1%	41	52	93	17.2%	.18	.30	.24
77	話・話合い	39	53	92	0.8%	29	44	73	13.5%	.13	.19	.16
S1	被害者は	1886	2094	3980	33.7%	218	224	442	81.9%	6.63	7.66	7.15
S2	被害者の	1520	1600	3120	26.5%	221	220	441	81.7%	5.11	5.86	5.49
S3	被害者に	967	999	1966	16.7%	221	212	433	80.2%	3.30	3.68	3.49
S4	被害者を	190	229	419	3.6%	100	106	206	38.1%	.64	.84	.74
S5	被害者から	21	40	61	0.5%	16	24	40	7.4%	.08	.15	.11
S6	被害者，	619	790	1409	11.9%	73	74	147	27.2%	2.22	2.86	2.54
S7	被害者と	207	207	414	3.5%	99	109	208	38.5%	.72	.76	.74
S8	被害者とは	14	2	16	0.1%	12	2	14	2.6%	.05	.01	.03
S9	被害者も	20	48	68	0.6%	14	26	40	7.4%	.06	.16	.11
	合計	5549	6202	11751	99.6%	269	269	538	99.6%	19.27	22.77	21.02

※該当反応産出人数及び平均反応数は，受講前後のデータがそろっている270名が母数である。うち1名は前後ともその回答はカテゴリ化不能であった。
11793反応中42反応（0.4%）はカテゴリ化できなかった。また，1121反応（9.5%）は刺激語でしかカテゴリ化できなかった。
カテゴリ化できなかった反応の例：「被害者らしい」，「被害者だらけ」等の意味付けが困難な反応。「被害者意識」等，意味付けは可能だが反応数が少ないものなど。
刺激語のみにカテゴリ化された反応の例：「被害者は61歳だ」，「被害者は男だ」，「被害者になる」，「被害者の行動」等，属性に係る記載やそれだけでは意味付けが困難な反応。
S1 ～ S9のＳは刺激語の意である。第一次調査では刺激語の助詞を固定しているため，S6 ～ S9に該当する回答はない。

別添資料６

表２　第二次調査・反応ごと・対応分析布置図



反応内容の全体的な傾向を見るべく，全 11793 反応について，抽出したカテゴリーの 01 行列に対し，対応分析を行い，布置図を作成した。

なお，「被害者支援団体」，「被害者と」，「話・話合い」，「被害者を」，「殺した」，「被害者を作る」，「被害者を出す」，「支援・援助」，「再加害防止・更生」は，極端な値を取り全体の構造を布置図として把握することが難しくなるため，これらは補助カテゴリとした。

その結果，反応内容をおおむね九つに分類することができた。

さらに細分化する場合，内部で分岐が見込まれる部分にスラッシュを入れた。

① <加害行為と被害者の視点を取り入れた教育>

「視点取得」「人生・命・将来」「奪う・断つ・変える」「R４」

② <被害者心情理解と冥福の祈り>

「冥福を祈る」／「言葉・声・メッセージ」「被害者のために」「被害者の」「被害者から」「聞く」／「被害者支援団体」「考える・考え」「気持ち」

③ <謝罪>

「連絡」／「会う」「謝罪(償い)」「謝罪」「金銭的賠償」「対する」「被害者に」「心から」

④ <事件事実と被害者の特徴>

「周囲の人・関係者」「褒め・賞賛・好き・感謝」「天国」「被害者は」「事件事実」「亡くなる」

別添資料６

⑤　＜被害者への想い(責任や哀れみ)＞

「被害者に責任転嫁しない」「被害者も」「加害者」「被害者批判等」「哀れみ」

⑥　＜事件の重大性と被害者の実情理解＞

「責める」「被害者を出す」「怒り」「殺した」「悩み」「被害者，」「取り返しのつかなさ」／「事件・事故」「私」「生きる」「被害者の要求」「疑問」「回復・元気・前向き」「残念」

⑦　＜加害行為の責任受容と許し・後悔＞

「言う・伝える」「責任の受容」「謝罪(許し)」／「傷つけた」「被害者と」「思う」「事件の重大性」「要望」「支援・援助」「問い合わせ」「後悔」「被害者を作る」「被害」「被害者を」

⑧　＜遺族等と向き合うこと，再加害防止・更生等に係る努力と継続性＞

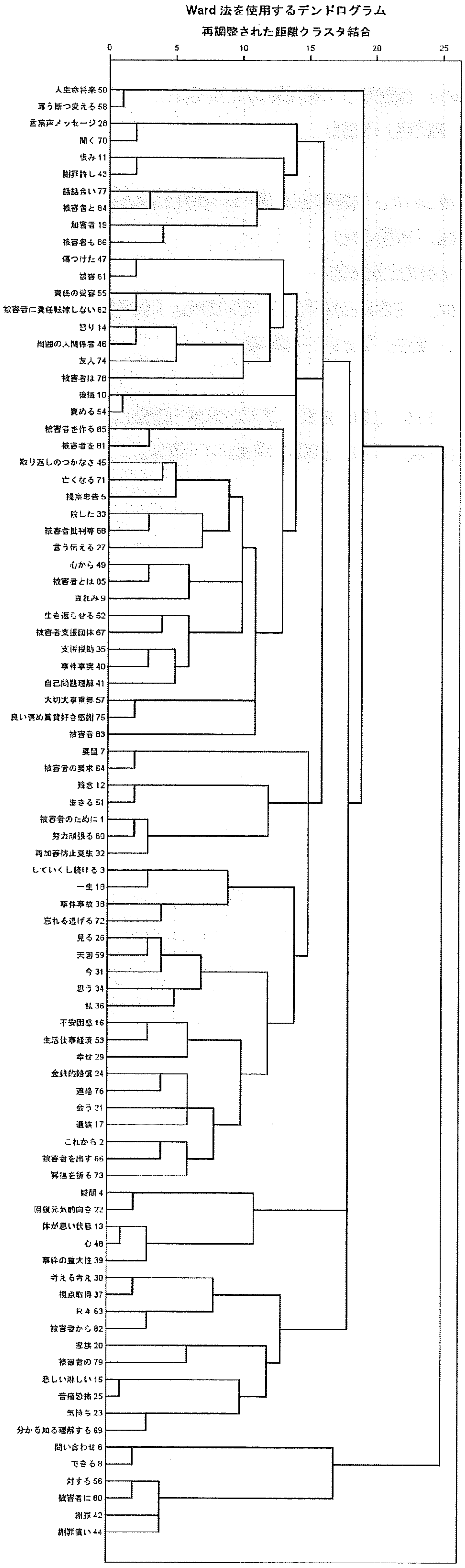
「できる」「一生」「していく・し続ける」／「遺族」「生き返らせる」／「これから」「自己問題理解」「提案・忠告」「努力・頑張る」「話・話合い」「再加害防止・更生」「忘れる・逃げる」

⑨　＜被害者の実情理解(その家族等に関する内容)＞

「心」「分かる・知る・理解する」「家族」「見る」「生活・仕事・家族」「大切・大事・重要」／「体が悪い状態」「苦・痛・恐怖」「悲しい・寂しい」「今」「被害者とは」「不安・困惑」「幸せ」／「友人」

別添資料６

表３　第二次調査・反応ごと・クラスター分析樹形図



全11793反応について，抽出したカテゴリーの01行列に対し，カテゴリカル主成分分析を行い，固有値１以上の35成分を抽出した。同成分の成分負荷行列に対し，階層的クラスター分析(抽出法：Ward法，測定方法：平方ユークリッド距離)を実施して，樹形図を作成した。

距離15と20の中間を目安に区切ると，五つのクラスターにまとまった。

① <クラスター1>
「人生・命・将来」「奪う・断つ・変える」

② <クラスター2>
「疑問」「回復・元気・前向き」「体が悪い状態」「心」「事件の重大性」

③ <クラスター3>
「考え・考える」「視点取得」「R４」「被害者から」「家族」「被害者の」「悲しい・寂しい」「苦・痛・恐怖」「気持ち」「分かる・知る・理解する」

④ <クラスター4>
「問い合わせ」「できる」「対する」「被害者に」「謝罪」「謝罪(償い)」

⑤ <クラスター5>
その他

⑤については，距離15を目安に次の３クラスターに分類された。なお，さらに細分化する場合，内部で分岐が見込まれる部分にスラッシュを入れた。

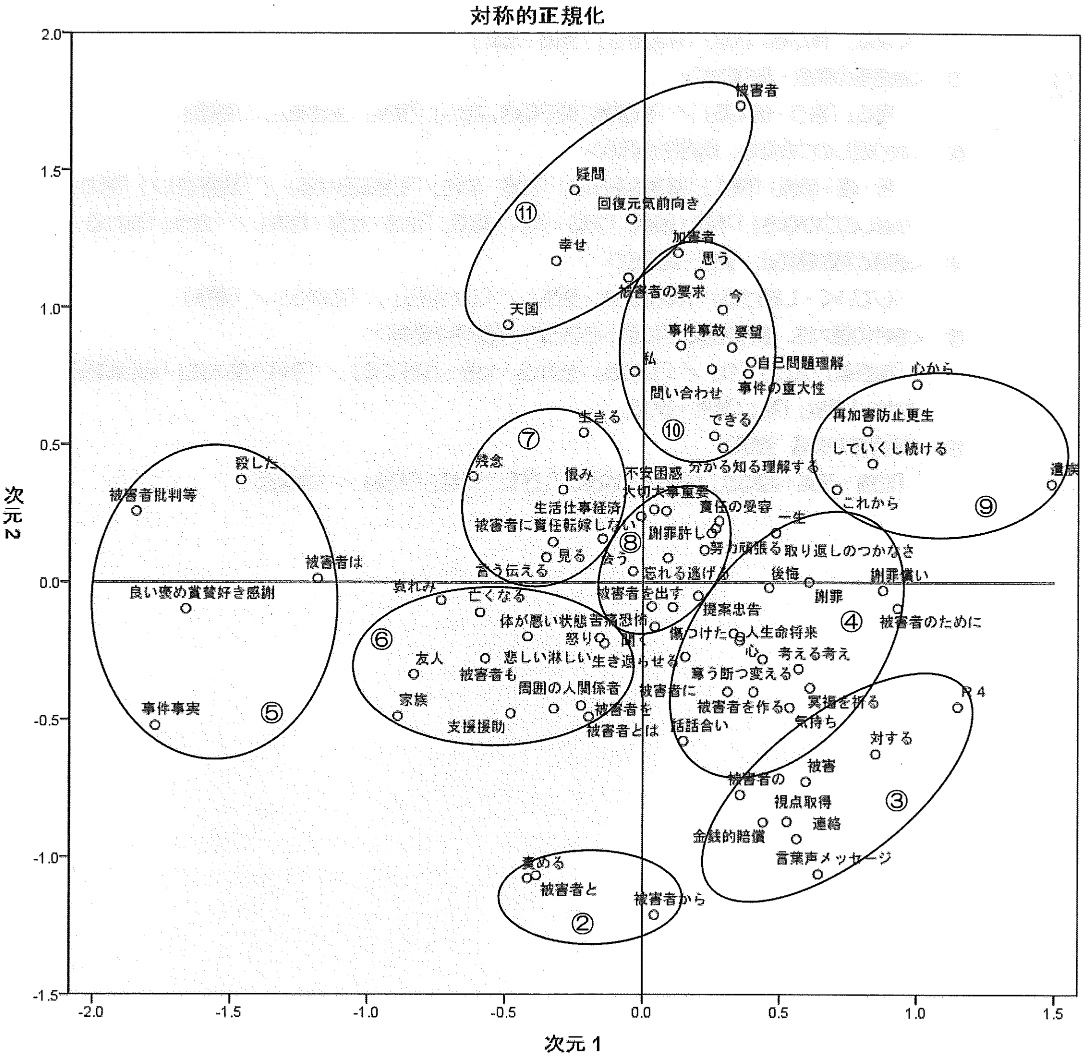
A <クラスターA>
「言葉・声・メッセージ」「聞く」「恨み」「謝罪(許し)」「話・話合い」「被害者と」「加害者」「被害者も」

B <クラスターB>
「傷つけた」「被害」「責任の受容」「被害者に責任転嫁しない」「怒り」「周囲の人・関係者」「友人」「被害者は」／「後悔」「責める」／「被害者を作る」「被害者を」「取り返しのつかなさ」「亡くなる」「提案・忠告」「殺した」「被害者批判等」「言う・伝える」「心から」「被害者とは」「哀れみ」「生き返らせる」「被害者支援団体」「支援・援助」「事件事実」「自己問題理解」「大切・大事・重要」「褒め・賞賛・好き・感謝」「被害者，」

C <クラスターC>
「要望」「被害者の要求」／「残念」「生きる」「被害者のために」「努力・頑張る」「再加害防止・更生」／「していく・し続ける」「一生」「事件・事故」「忘れる・逃げる」／「見る」「天国」「今」「思う」「私」／「不安・困惑」「生活・仕事・経済」「幸せ」「金銭的賠償」「連絡」「会う」「遺族」「これから」「被害者を出す」「冥福を祈る」

別添資料６

表４　第二次調査・受講者ごと・対応分析布置図



受講者ごとで見た反応内容の全体的な傾向を見るべく，のべ567名の受講者の反応に対し，対応分析を行い，布置図を作成した。

なお，「被害者批判等」，「被害者，」「被害者支援団体」，「褒め・賞賛・好き・感謝」，「加害者」が特定の対象者に集中し，外れ値として全体の構造に歪みが生じたため，これらを補助カテゴリとして分析を行った。

結果からは，おおむね11のまとまりが確認された。

さらに細分化する場合，内部で分岐が見込まれる部分にスラッシュを入れた。

① ＜被害者支援団体＞

「被害者支援団体」（外れ値のためプロットせず。座標は，次元1：.224，次元2：-2.115）

② ＜被害者から責められる＞

「責める」「被害者と」／「被害者から」

③ ＜被害者の声・賠償と被害者の視点を取り入れた教育＞

「言葉・声・メッセージ」「被害者の」「被害」「金銭的賠償」「連絡」「視点取得」／「R４」「対する」

④ ＜加害行為と謝罪＞

「一生」「謝罪」「後悔」「謝罪(償い)」「被害者のために」／「話・話合い」「気持ち」「冥福を祈る」「考える・考え」「被害者に」「被害者を作る」「奪う・断つ・変える」「傷つけた」「人生・命・将来」「心」

⑤ ＜事件事実と被害者への想い＞

「事件事実」「褒め・賞賛・好き・感謝」「殺した」「被害者批判等」「被害者は」

別添資料6

⑥　＜被害者・その家族等の実情理解＞

「怒り」「悲しい・寂しい」「被害者を」「被害者とは」「周囲の人・関係者」／「家族」「友人」／「哀れみ」「亡くなる」「体が悪い状態」「被害者も」「支援・援助」

⑦　＜被害者の無念・非のなさ＞

「見る」「言う・伝える」／「被害者に責任転嫁しない」「恨み」「生きる」／「残念」

⑧　＜取り返しのつかなさ，向き合う努力＞

「苦・痛・恐怖」「聞く」「被害者を出す」「提案・忠告」「生き返らせる」／「謝罪(許し)」「努力・頑張る」「取り返しのつかなさ」「不安・困惑」「大切・大事・重要」「生活・仕事・経済」／「会う」「忘れる・逃げる」

⑨　＜遺族と再加害防止・更生・継続性＞

「していく・し続ける」「再加害防止・更生」／「これから」／「心から」／「遺族」

⑩　＜事件の重大性，事件を起こすに至った自己の問題性等の理解＞

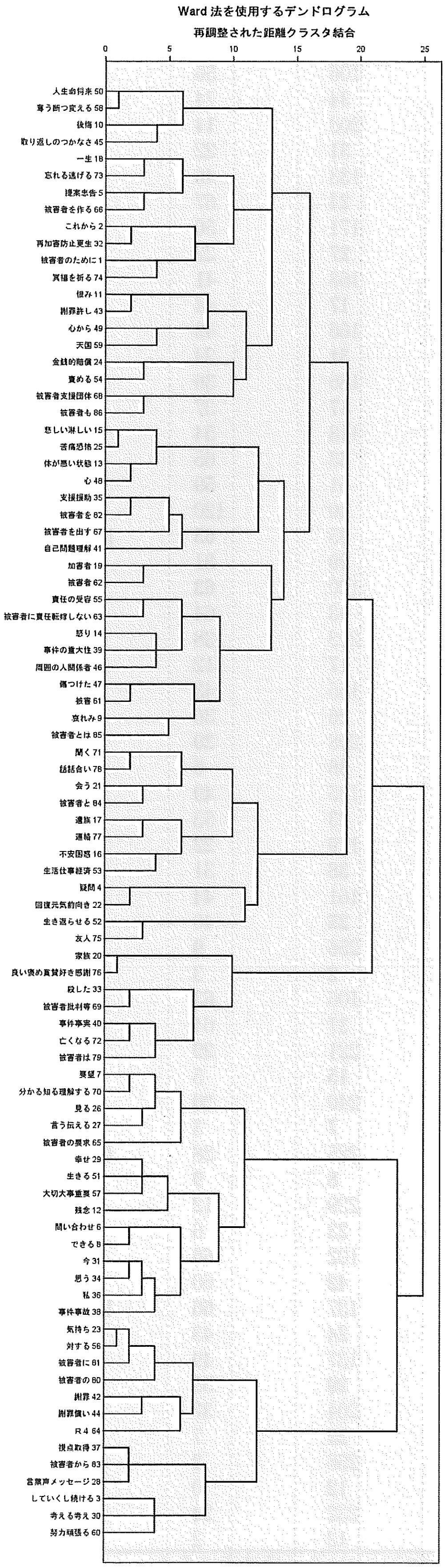
「加害者」「思う」「今」／「できる」「分かる・知る・理解する」／「事件の重大性」「自己問題理解」「問い合わせ」「要望」「私」「事件・事故」

⑪　＜被害者の幸福，要求＞

「回復・元気・前向き」「被害者の要求」「疑問」「幸せ」「天国」／「被害者，」

別添資料６

表５　第二次調査・受講者ごと・クラスター分析樹形図



のべ567名の受講者の反応に対し，主成分分析を行い，固有値１以上の31成分を抽出した。同成分の成分負荷行列に対し，階層的クラスター分析（抽出法：Ward法，測定方法：平方ユークリッド距離）を実施して，樹形図を作成した。

距離15を目安に区切ると，六つにまとまった。

さらに細分化する場合，内部で分岐が見込まれる部分にスラッシュを入れた。

① <クラスター1>

「被害者の」「被害者に」「対する」「気持ち」「R４」「謝罪」「謝罪（償い）」／「視点取得」「被害者から」「言葉・声・メッセージ」「していく・し続ける」「考える・考え」「努力・頑張る」

② <クラスター2>

「要望」「分かる・知る・理解する」「見る」「言う・伝える」「被害者の要求」／「幸せ」「生きる」「大切・大事・重要」「残念」「問い合わせ」「できる」「今」「思う」「私」「事件・事故」

③ <クラスター3>

「家族」「褒め・賞賛・好き・感謝」「殺した」「被害者批判等」「事件事実」「亡くなる」「被害者は」

④ <クラスター4>

「聞く」「話・話合い」「会う」「被害者と」「遺族」「連絡」「不安・困惑」「生活・仕事・経済」／「疑問」「回復・元気・前向き」／「生き返らせる」「友人」

⑤ <クラスター5>

「被害者とは」「哀れみ」「被害」「傷つけた」「周囲の人・関係者」「事件の重大性」「怒り」「被害者に責任転嫁しない」「責任の受容」／「被害者」「加害者」「自己問題理解」「被害者を出す」「被害者を」「支援・援助」／「心」「体が悪い状態」「苦・痛・恐怖」「悲しい・寂しい」

⑥ <クラスター6>

「被害者も」「被害者支援団体」「責める」「金銭的賠償」「天国」「心から」「謝罪（許し）」「恨み」／「冥福を祈る」「被害者のために」「再加害防止・更生」「これから」「被害者を作る」「提案・忠告」「忘れる・逃げる」「一生」／「取り返しのつかなさ」「後悔」「奪う・断つ・変える」「人生・命・将来」

別添資料6

表6 第二次調査・指導受講前後・McNemar 検定

カテゴリ番号	カテゴリ名（内容）	指導前	指導後		χ^2値	有意確率
			なし	あり		
7	要望	なし	106	**56**	4.900	.027
		あり	**34**	74		
9	哀れみ	なし	203	**14**	5.689	.017
		あり	**31**	22		
13	体が悪い状態	なし	133	**46**	6.300	.012
		あり	**24**	67		
16	不安・困惑	なし	171	**50**	6.286	.012
		あり	**27**	22		
17	遺族	なし	168	**41**	9.121	.003
		あり	**17**	44		
18	一生	なし	166	**49**	3.613	.057
		あり	**31**	24		
19	加害者	なし	186	**30**	3.064	.080
		あり	**17**	37		
21	会う	なし	118	**54**	4.598	.032
		あり	**33**	65		
23	気持ち	なし	51	**59**	3.273	.070
		あり	**40**	120		
25	苦・痛・恐怖	なし	95	**65**	13.032	.000
		あり	**29**	81		
30	考える・考え	なし	100	**63**	3.406	.065
		あり	**43**	64		
32	再加害防止・更生	なし	203	**38**	7.273	.007
		あり	**17**	12		
38	事件・事故	なし	165	**43**	3.710	.054
		あり	**26**	36		
39	事件の重大性	なし	208	**20**	4.018	.045
		あり	**36**	6		
44	謝罪（償い）	なし	135	**49**	2.744	.098
		あり	**33**	53		
48	心	なし	179	**22**	3.750	.053
		あり	**38**	31		
51	生きる	なし	161	**44**	4.696	.030
		あり	**25**	40		
52	生き返らせる	なし	256	**9**	3.273	.065
		あり	**2**	3		
53	生活・仕事・経済	なし	106	**63**	6.250	.012
		あり	**37**	64		
60	努力・頑張る	なし	221	**29**	3.841	.050
		あり	**15**	5		
63	被害者の視点を取り入れた教育	なし	240	**20**	5.333	.021
		あり	**7**	3		
65	被害者を作る	なし	225	**28**	10.028	.002
		あり	**8**	9		
66	被害者を出す	なし	229	**12**	2.857	.091
		あり	**23**	6		
69	分かる・知る・理解する	なし	102	**66**	4.898	.027
		あり	**42**	60		
72	忘れる・逃げる	なし	137	**66**	18.678	.000
		あり	**24**	43		
73	冥福を祈る	なし	137	**49**	4.628	.031
		あり	**29**	55		
77	話・話合い	なし	204	**37**	3.322	.068
		あり	**22**	7		
S8	被害者とは	なし	256	**2**	5.786	.013
		あり	**12**	0		
S9	被害者も	なし	232	**24**	3.361	.067
		あり	**12**	2		

※Nは270，自由度は1である。有意確率の斜体は2項検定における正確確率である。

別添資料６

表7　第二次調査・指導受講前後・対応のある *t* 検定

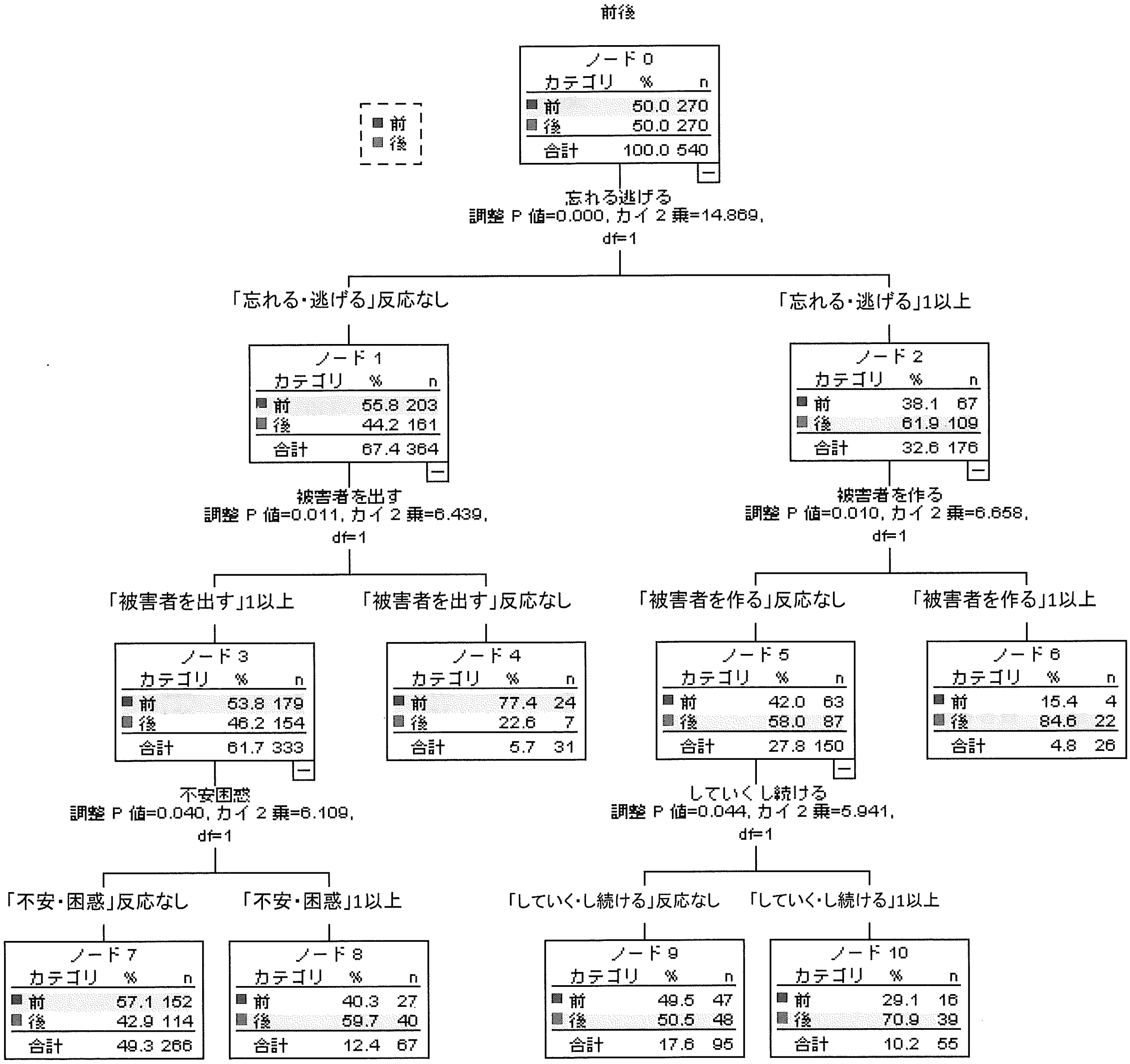
カテゴリ番号	カテゴリ名（内容）	平均値 指導前	平均値 指導後	*t* 値	有意確率（両側）
3	していく・し続ける	.37	.49	-1.819	.070
7	要望	.68	1.04	-3.680	.000
9	哀れみ	.23	.15	2.621	.009
13	体が悪い状態	.56	.74	-2.787	.006
16	不安・困惑	.24	.37	-2.467	.014
17	遺族	.79	1.44	-4.230	.000
18	一生	.24	.37	-2.708	.007
21	会う	.58	.78	-2.775	.006
24	金銭的賠償	.13	.17	-1.692	.092
25	苦・痛・恐怖	.74	1.08	-3.949	.000
30	考える・考え	.67	.86	-2.305	.022
32	再加害防止・更生	.13	.34	-3.196	.002
34	思う	2.16	1.83	2.256	.025
38	事件・事故	.36	.47	-1.677	.095
39	事件の重大性	.18	.10	2.313	.022
42	謝罪	2.75	3.01	-1.697	.091
43	謝罪（許し）	.41	.53	-2.204	.028
50	人生・命・将来	.43	.54	-2.070	.039
51	生きる	.36	.46	-2.077	.039
52	生き返らせる	.02	.04	-1.739	.083
53	生活・仕事・経済	.65	.90	-2.902	.004
54	責める	.04	.07	-1.834	.068
60	努力・頑張る	.08	.16	-2.377	.018
63	被害者の視点を取り入れた教育	.05	.10	-2.114	.035
64	被害者の要求	.14	.21	-2.103	.036
65	被害者を作る	.08	.16	-3.112	.002
66	被害者を出す	.12	.08	1.692	.092
69	分かる・知る・理解する	.66	.86	-2.170	.031
72	忘れる・逃げる	.34	.66	-4.750	.000
76	連絡	.18	.30	-2.420	.016
77	話・話合い	.13	.19	-1.692	.092
S1	被害者は	6.63	7.66	-2.565	.011
S2	被害者の	5.11	5.86	-2.203	.028
S3	被害者に	3.30	3.68	-1.939	.054
S4	被害者を	.64	.84	-2.296	.022
S5	被害者から	.08	.15	-1.939	.054
S8	被害者とは	.05	.01	2.715	.007
S9	被害者も	.06	.16	-2.543	.012
	反応数	19.27	22.77	-5.874	.000

※全てＮは270，自由度は269である。

別添資料６

表8　第二次調査・決定木分析

ノード	インデックス	観測	予測値 前	予測値 後	正解の割合	相対リスク 推定値	相対リスク 標準誤差
6	169.2%	前	176	94	65.2%	.398	.021
10	141.8%	後	121	149	55.2%		
8	119.4%	全体	55.0%	45.0%	60.2%		
9	101.1%						
7	85.7%						
4	45.2%						



別添資料６

表9　第一次調査・被害者からとの共起・反応数ごとのχ^2検定

番号	カテゴリ名（内容）		指導前	指導後	合計	χ^2値	p値
11	恨み	度数	37	26	63	7.533	.006
		%	58.7%	41.3%	100.0%		
18	一生	度数	7	2	9	4.645	.031
		%	77.8%	22.2%	100.0%		
26	見る	度数	3	13	16	3.794	.051
		%	18.8%	81.3%	100.0%		
54	責める	度数	10	29	39	4.845	.028
		%	25.6%	74.4%	100.0%		
68	被害者批判等	度数	28	10	38	16.077	.000
		%	73.7%	26.3%	100.0%		
70	聞く	度数	21	15	36	3.909	.048
		%	58.3%	41.7%	100.0%		
72	忘れる・逃げる	度数	11	6	17	3.52	.061
		%	64.7%	35.3%	100.0%		
	合計	度数	267	361	628		
		%	42.5%	57.5%	100.0%		

※自由度は全て1である。

表10　第二次調査・謝罪・指導受講前後・McNemar 検定

カテゴリ名（内容）	指導前	指導後		χ^2値	有意確率
		なし	あり		
明確な謝罪	なし	121	**64**	22.012	.000
	あり	**20**	65		
軽い謝罪	なし	189	**23**	7.014	.008
	あり	**46**	12		
ひらがなの謝罪	なし	180	**21**	4.339	.037
	あり	**38**	31		

※Ｎは270，自由度は1である。

本文の趣旨からはやや外れるため，本文中では触れなかったが，明確な謝罪及び軽い謝罪をカテゴライズするのに合わせて，表記がひらがなのみの謝罪表現に注目し，「ひらがなの謝罪」としてカテゴライズした。反応数自体は，指導前114，指導後79，合計193であった。各受講者が，指導の前後で1つでも同反応を出しているか否かについて，対応のある McNemar 検定を行ったところ，指導前に同反応があったが指導後なくなった者の割合が，指導前は同反応がなかったが指導後はあった者の割合を有意に上回った。Ｒ４を通じて，謝罪表現を学んだ可能性，漢字で書こうという意欲（つまり，謝罪への動機付け）が高まった可能性などが示唆され，いずれであったとしても，Ｒ４の指導効果の肯定的側面の一つと考えることができよう。

表11　第二次調査・謝罪・指導受講前後・対応あるt検定

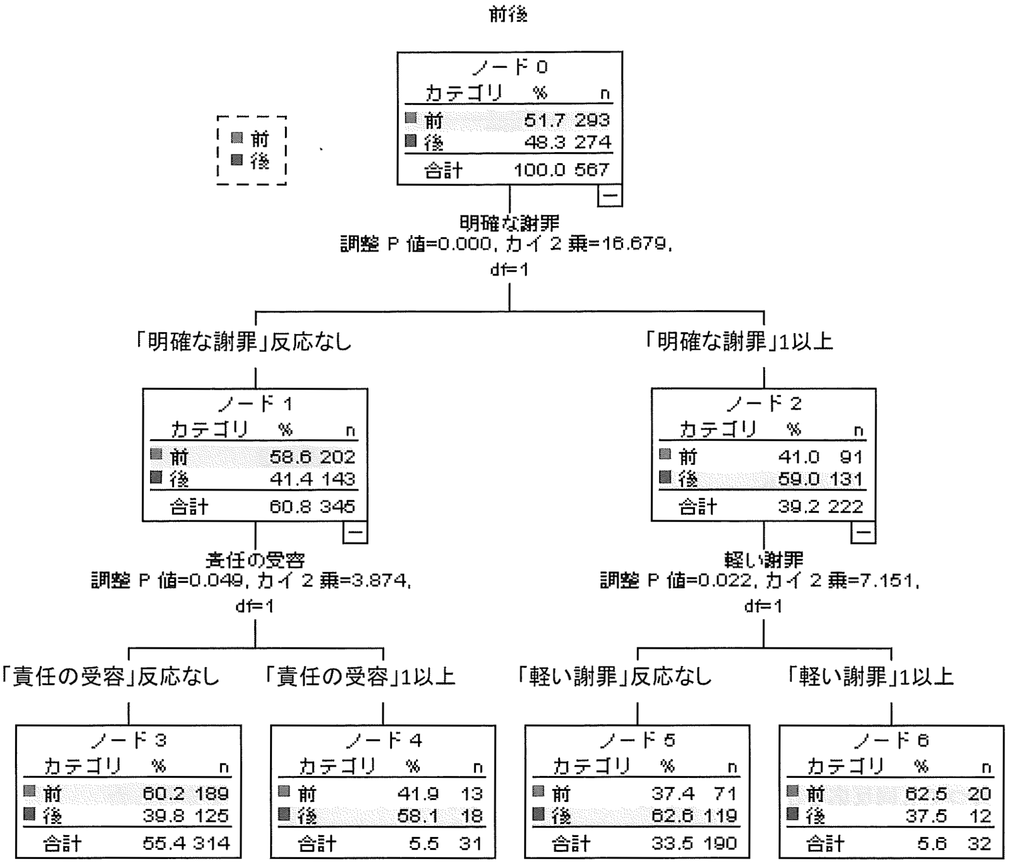
カテゴリ名（内容）	平均値		t値	有意確率（両側）
	指導前	指導後		
明確な謝罪	.46	.76	-4.104	.000
軽い謝罪	.28	.16	2.539	.012
ひらがなの謝罪	.37	.29	1.454	.147

※全てＮは270，自由度は269である。

別添資料６

表12　明確な謝罪・軽い謝罪を追加した決定木分析

ノード	インデックス	観測	予測値 前	予測値 後	正解の割合	相対リスク 推定値	相対リスク 標準誤差
5	129.6%	前	209	84	71.3%	.390	.020
4	120.2%	後	137	137	50.0%		
3	82.4%	全体	61.0%	39.0%	61.0%		
6	77.6%						



別添資料7

第二次調査における調査票2の分析結果（因子分析の結果）

犯罪の中和化尺度・因子分析結果

番号	内容	因子1	因子2	因子3	平均	標準偏差
＜中和1：被害者及び責任の否定因子＞						
1_16	今回の事件は，被害者が悪いから起こったのだと思う。	.92	-.08	.00	1.58	1.08
1_11	今回の自分の事件は，被害者も責められて当たり前である。	.86	-.02	.06	1.69	1.16
1_1	今回の自分の事件は，被害者に原因があった。	.81	-.06	-.01	1.86	1.23
1_26	今回の自分の事件は，自分よりもむしろ被害者の方が責められるべきだ。	.80	.08	-.07	1.33	.84
1_29	今回の自分の事件での行動をやっていなかったら，自分が危なかった。	.55	.03	.07	1.61	1.18
1_6	今回の自分の事件は，いろいろな事情で仕方なくやってしまった。	.49	.19	-.01	2.15	1.41
＜中和2：非難者への非難因子＞						
1_13	世の中にはもっと悪い人はいるのに，今回の事件で自分がこれほど責められるのはおかしい。	-.05	.76	-.06	1.24	.66
1_3	今回の自分の事件で，自分よりももっと悪い人はいるのに，自分ばかり責められるのは納得がいかない。	.02	.74	-.08	1.39	.79
1_8	今回の自分の事件で，自分のことを悪いと言う人も裏では悪いことをしているはずで，自分のことだけを悪いと言うのはおかしい。	-.04	.68	-.01	1.43	.85
1_23	今回の自分の事件で，自分のことを悪いと言われると，あなただって悪いことをしたことがあるでしょうと言いたくなる。	.04	.60	.05	1.46	.92
1_18	事情も知らずに今回の事件のことで自分のことばかりを責める人たちは，間違っている。	.19	.50	.11	1.76	1.14
＜中和3：より高度の忠誠への訴え因子＞						
1_15	仲間や大切な人のためなら，他人を傷つけても仕方がない。	-.03	-.04	.88	1.50	.88
1_10	他人を傷つけることになっても，仲間や大切な人のために行動しないといけない。	-.04	.06	.79	2.00	1.16
1_25	仲間や大切な人とのつながりを守るためには，他人を傷つけてしまうのはやむを得ない。	.01	.02	.79	1.63	.96
1_20	仲間や大切な人を助けることになったとしても，人を傷つけることは許されない。（逆転項目）	-.12	.09	-.43	2.42	1.47
因子間相関	因子2＜中和2：非難者への非難因子＞	.50				
	因子3＜中和3：より高度の忠誠への訴え因子＞	.23	.30			

罪悪感の尺度・因子分析結果

番号	内容	因子1	平均	標準偏差
2_3	被害者やその家族に対して，自分が生きていることについて申し訳なく思う。	.84	2.88	1.46
2_5	自分がこうして生活できていることは何か間違っていていけないことのように思える。	.84	2.54	1.36
2_2	被害者やその家族のことを考えると自分はこれから幸せをつかんではいけないと思う。	.75	2.74	1.37
2_4	被害者やその家族より自分がいい思いをしているようですまないと感じる。	.73	2.78	1.47
2_6	被害者やその家族より自分の方が得をしているようで心苦しい。	.72	2.34	1.41
2_1	こんな犯罪をやった自分が生きていることを後ろめたく感じる。	.72	3.13	1.42
2_7	事件のことが胸にひっかかっていて，物事に積極的に取り組めない。	.55	2.53	1.27

謝罪の動機尺度・因子分析結果

番号	内容	因子1	因子2	平均	標準偏差
＜道具的謝罪因子＞					
3_3	自分に対する印象が良くなるから。	.75	.04	1.87	1.18
3_10	周りからあれこれ言われないため。	.73	.02	1.71	1.16
3_9	被害者やその家族からのいやがらせをされないため。	.67	.02	1.57	1.05
3_5	仮釈放など，自分の刑を軽くしてもらうため。	.66	-.01	1.94	1.24
3_1	自分や身近な人への風当たりをやわらげるため。	.65	.02	2.41	1.55
3_7	やるべきことをやって，早くこの事件を終わりにするため。	.52	-.12	2.13	1.42
＜誠実な謝罪因子＞					
3_8	本当に傷つけてしまったと思うので。	-.01	.84	5.47	.98
3_2	自分がやってしまったことに責任をとる必要があるから。	.02	.74	5.43	.97
3_6	本当にひどいことをしてしまったと思うので。	.01	.71	5.49	.97
3_4	人として当然のことだから。	-.03	.66	5.24	1.15
因子間相関	因子2＜誠実な謝罪因子＞	-.16			

謝罪の実施意思尺度・因子分析結果

番号	内容	因子1	平均	標準偏差
4_2_9	被害者やその家族に，ののしられたとき。	.88	3.69	1.14
4_2_7	どんなに償っても被害者やその家族に許してもらえないと感じたとき。	.87	3.81	1.04
4_2_10	被害者やその家族が自分の言い分を聞いてくれなかったとき。	.85	3.76	1.13
4_2_11	同じようなことをした人で，もっとたやすく被害者に許してもらえている人もいるのに，自分はなかなか許してもらえないと分かったとき。	.85	3.71	1.16
4_2_1	謝罪に行ったものの，許してくれなかったとき。	.84	4.01	1.01
4_2_8	自分につらいことが起こって，気分が沈みがちになってしまったとき。	.83	3.73	1.02
4_2_2	手紙で謝罪したのに，手紙が返送されてきたとき。	.82	3.89	1.10
4_2_3	要求された損害賠償額が多額で，一生かけても払えそうにないとき。	.80	3.51	1.10
4_2_5	自分の大切な人のために，多額の金銭を費やす必要ができたとき。	.76	3.49	1.06
4_2_6	今回の事件とは別に，自分の生きる目標ができたとき。	.76	3.97	.99
4_2_4	失業するなどして，被害弁償するメドがつかなくなったとき。	.74	3.44	1.06

別添資料7

第二次調査における調査票2の分析結果（分散分析の結果）

性別×受講前後

尺度	群	受講前		受講後		度数	群の主効果	前後の主効果	交互作用	単純主効果
		平均	標準偏差	平均	標準偏差					
中和1	男	1.65	.85	1.61	.91	198	1.748	5.697*	n.s.	
被害者及び責任の否定	女	1.98	.88	1.75	.79	25				
中和2	男	1.44	.60	1.39	.60	198	6.393*	6.719*	n.s.	
非難者への非難	女	1.84	1.03	1.62	.71	25				
中和3	男	2.22	.61	2.21	.62	198	.089	1.567	n.s.	
より高度の忠誠への訴え	女	2.27	.64	2.10	.41	25				
罪悪感	男	2.68	1.08	2.62	1.06	198	2.260	.182	n.s.	
	女	2.97	.96	2.96	1.11	25				
道具的謝罪	男	2.05	.92	1.83	.89	198	.200	2.664	n.s.	
	女	1.89	.95	1.83	.87	25				
誠実な謝罪	男	5.44	.73	5.47	.77	198	1.203	.042	n.s.	
	女	5.62	.57	5.61	.50	25				
謝罪の実施意思	男	3.77	.83	3.86	.90	198	.126	4.253*	n.s.	
	女	3.64	.66	3.86	.62	25				

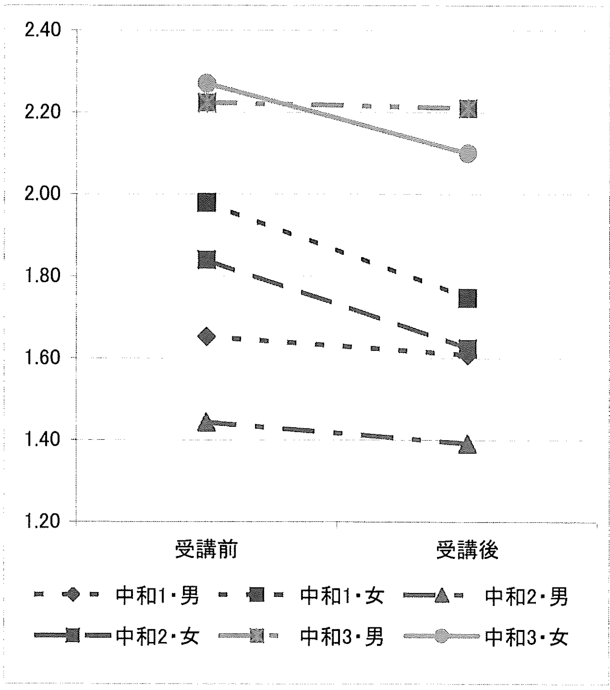
+:p<.10　*:p<.05　**:p<.01　***:p<.001

Ａ／Ｂ指標×受講前後

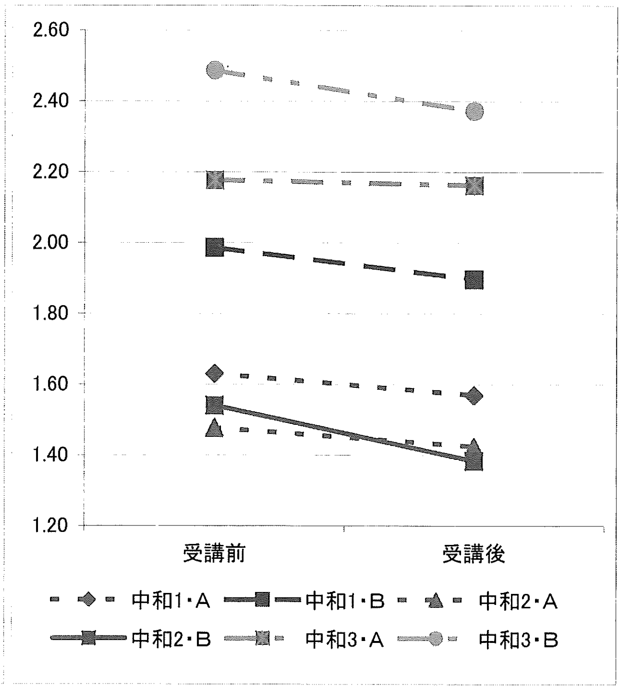
尺度	群	受講前		受講後		度数	群の主効果	前後の主効果	交互作用	単純主効果
		平均	標準偏差	平均	標準偏差					
中和1	A	1.63	.79	1.57	.82	186	5.305*	2.312	n.s.	
被害者及び責任の否定	B	1.99	1.13	1.90	1.18	37				
中和2	A	1.48	.66	1.42	.60	186	.012	5.712*	n.s.	
非難者への非難	B	1.54	.72	1.38	.69	37				
中和3	A	2.18	.54	2.16	.54	186	8.670**	1.081	n.s.	
より高度の忠誠への訴え	B	2.49	.87	2.37	.80	37				
罪悪感	A	2.77	1.05	2.70	1.04	186	2.745	.277	n.s.	
	B	2.45	1.14	2.44	1.17	37				
道具的謝罪	A	2.08	.93	1.85	.90	186	1.916	4.156*	n.s.	
	B	1.80	.87	1.73	.86	37				
誠実な謝罪	A	5.50	.65	5.54	.67	186	5.332*	.123	n.s.	
	B	5.24	.96	5.24	1.01	37				
謝罪の実施意思	A	3.77	.78	3.86	.88	186	.339	3.921	n.s.	
	B	3.66	.96	3.82	.86	37				

+:p<.10　*:p<.05　**:p<.01　***:p<.001

性別×受講前後



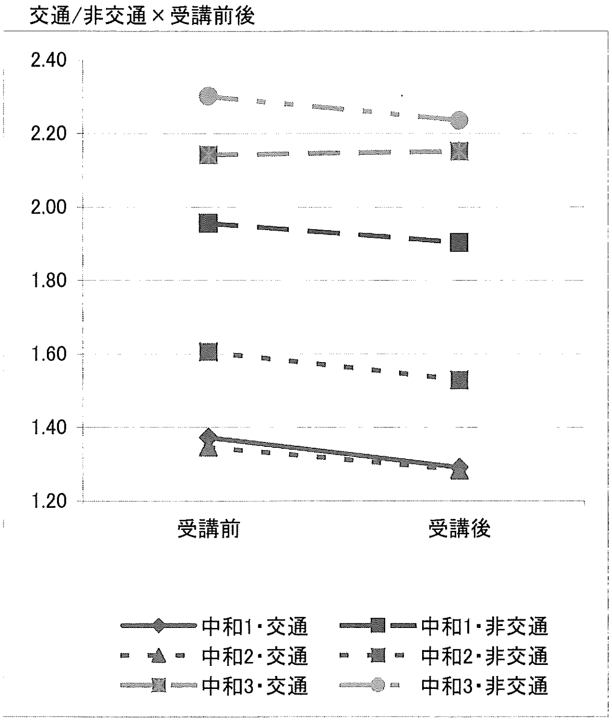
A/B指標×受講前後

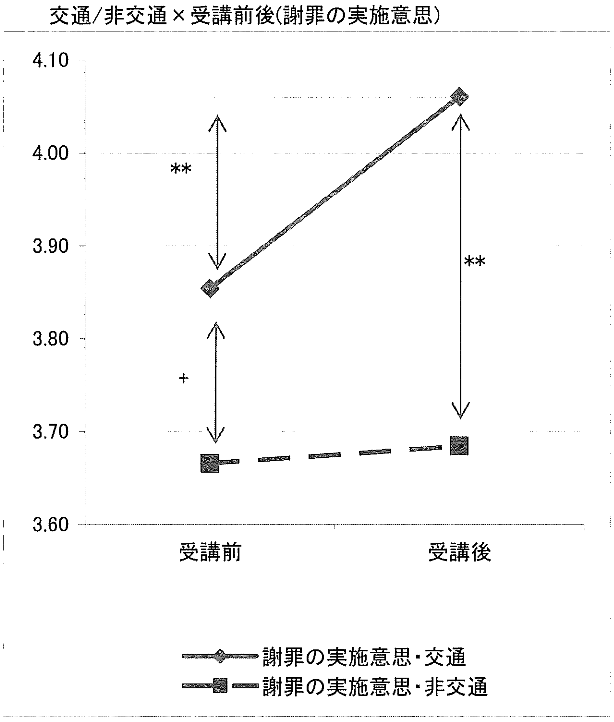


交通／非交通×受講前後

尺度	群	受講前 平均	受講前 標準偏差	受講後 平均	受講後 標準偏差	度数	群の主効果	前後の主効果	交互作用	単純主効果
中和1	交通	1.37	.57	1.29	.56	102	32.607***	3.267^{+}	n.s.	
被害者及び責任の否定	非交通	1.96	.97	1.90	1.02	121				
中和2	交通	1.35	.47	1.28	.43	102	10.399**	4.532*	n.s.	
非難者への非難	非交通	1.61	.78	1.53	.72	121				
中和3	交通	2.14	.49	2.15	.53	102	3.344^{+}	.366	n.s.	
より高度の忠誠への訴え	非交通	2.30	.69	2.24	.65	121				
罪悪感	交通	2.87	1.04	2.86	1.00	102	6.160*	.922	n.s.	
	非交通	2.59	1.07	2.49	1.10	121				
道具的謝罪	交通	2.00	.81	1.70	.85	102	1.977	15.028***	n.s.	
	非交通	2.06	1.02	1.94	.91	121				
誠実な謝罪	交通	5.61	.44	5.69	.46	102	12.777***	.792	n.s.	
	非交通	5.34	.87	5.32	.88	121				
謝罪の実施意思	交通	3.85	.81	4.06	.74	102	7.753**	5.748*	3.993*	前：交通＞非交通$^{+}$ 後：交通＞非交通**
	非交通	3.67	.80	3.68	.94	121				交通：前＜後**

$^{+}$:p<.10　*:p<.05　**:p<.01　***:p<.001



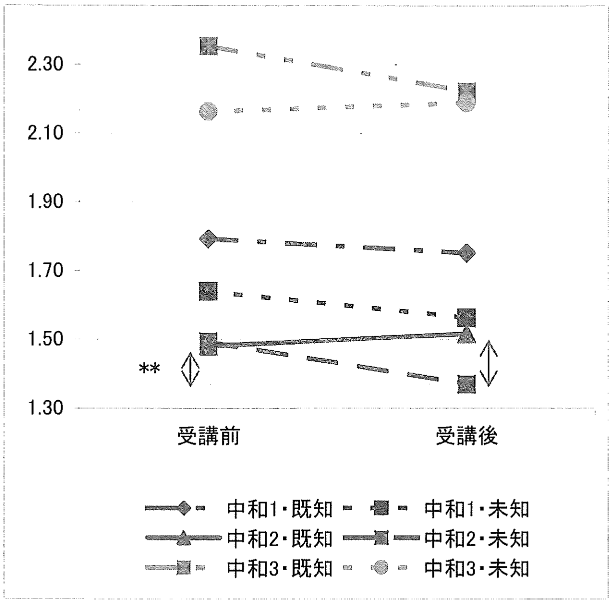


被害者既知／未知×受講前後

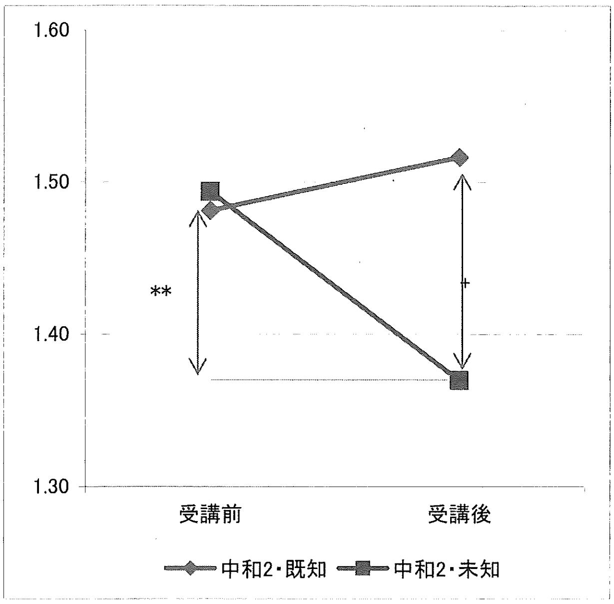
尺度	群	受講前 平均	受講前 標準偏差	受講後 平均	受講後 標準偏差	度数	群の主効果	前後の主効果	交互作用	単純主効果
中和1	既知	1.79	.83	1.75	.87	79	2.091	2.342	n.s.	
被害者及び責任の否定	未知	1.64	.89	1.56	.91	139				
中和2	既知	1.48	.61	1.52	.67	79	.630	1.649	5.358*	後：既知＞未知$^{+}$
非難者への非難	未知	1.49	.71	1.37	.59	139				未知：前＜後**
中和3	既知	2.35	.69	2.22	.52	79	2.536	1.210	n.s.	
より高度の忠誠への訴え	未知	2.16	.57	2.19	.64	139				
罪悪感	既知	2.91	1.08	2.81	1.07	79	3.478^{+}	1.589	n.s.	
	未知	2.63	1.06	2.58	1.06	139				
道具的謝罪	既知	2.03	1.02	1.82	.86	79	.007	12.652***	n.s.	
	未知	2.02	.86	1.82	.91	139				
誠実な謝罪	既知	5.49	.69	5.51	.59	79	.218	.358	n.s.	
	未知	5.44	.74	5.47	.82	139				
謝罪の実施意思	既知	3.83	.73	3.96	.86	79	1.743	4.766**	n.s.	
	未知	3.70	.86	3.79	.89	139				

$^{+}$:p<.10　*:p<.05　**:p<.01　***:p<.001

被害者既知/未知×受講前後



被害者既知/未知×受講前後(中和2)

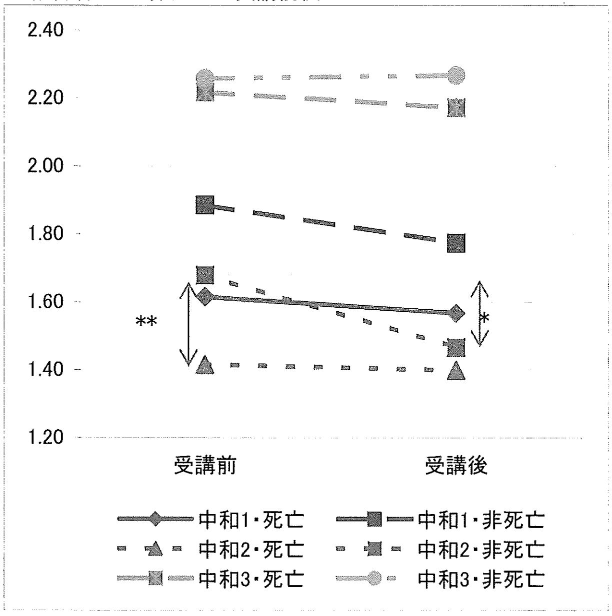


被害者死亡／非死亡×受講前後

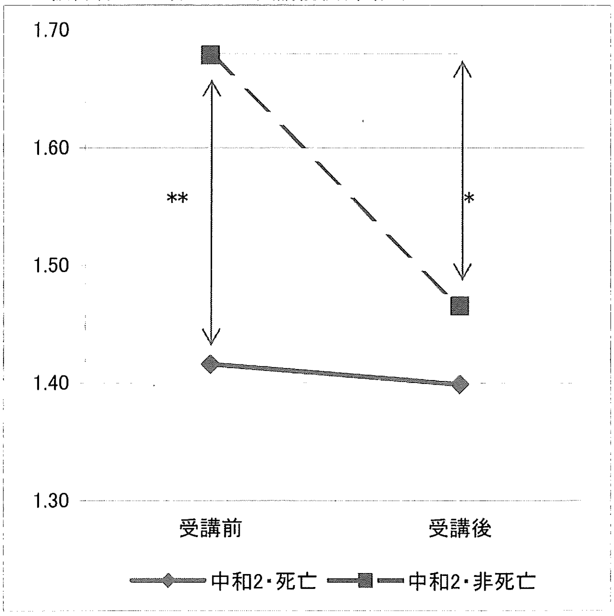
尺度	群	受講前 平均	受講前 標準偏差	受講後 平均	受講後 標準偏差	度数	群の主効果	前後の主効果	交互作用	単純主効果
中和1	死亡	1.62	.80	1.57	.82	162	3.669^{+}	3.752^{+}	n.s.	
被害者及び責任の否定	非死亡	1.89	.98	1.77	1.06	61				
中和2	死亡	1.42	.55	1.40	.58	162	3.449^{+}	10.086^{**}	7.287^{**}	前：死亡＜非死亡 **
非難者への非難	非死亡	1.68	.89	1.47	.69	61				非死亡：前＞後 *
中和3	死亡	2.22	.62	2.17	.54	162	.825	.134	n.s.	
より高度の忠誠への訴え	非死亡	2.26	.60	2.27	.72	61				
罪悪感	死亡	2.93	1.07	2.85	1.03	162	27.144^{***}	.421	n.s.	
	非死亡	2.16	.85	2.15	1.01	61				
道具的謝罪	死亡	2.02	.93	1.84	.89	162	.014	13.808^{***}	n.s.	
	非死亡	2.08	.91	1.80	.89	61				
誠実な謝罪	死亡	5.55	.59	5.57	.55	162	9.883^{*}	.673	n.s.	
	非死亡	5.23	.95	5.27	1.09	61				
謝罪の実施意思	死亡	3.83	.77	3.95	.80	162	7.634^{*}	3.233^{+}	n.s.	
	非死亡	3.54	.87	3.61	1.01	61				

$^{+}$:p<.10　*:p<.05　**:p<.01　***:p<.001

被害者死亡/非死亡×受講前後



被害者死亡/非死亡×受講前後(中和2)



別添資料８　第二次調査における調査票３の分析結果

○基本統計量

	受講前得点	受講後得点
度数（人）	190	190
平均値	7.64	8.35
中央値	8.00	8.00
標準偏差	3.096	3.709
最小値	0	0
最大値	15	17

○受講前得点

合計得点	度数（人）	有効パーセント	累積パーセント
0	3	1.6	1.6
1	4	2.1	3.7
2	1	.5	4.2
3	10	5.3	9.5
4	15	7.9	17.4
5	15	7.9	25.3
6	13	6.8	32.1
7	28	14.7	46.8
8	29	15.3	62.1
9	16	8.4	70.5
10	22	11.6	82.1
11	14	7.4	89.5
12	9	4.7	94.2
13	8	4.2	98.4
14	1	.5	98.9
15	2	1.1	100.0
合計	190	100.0	

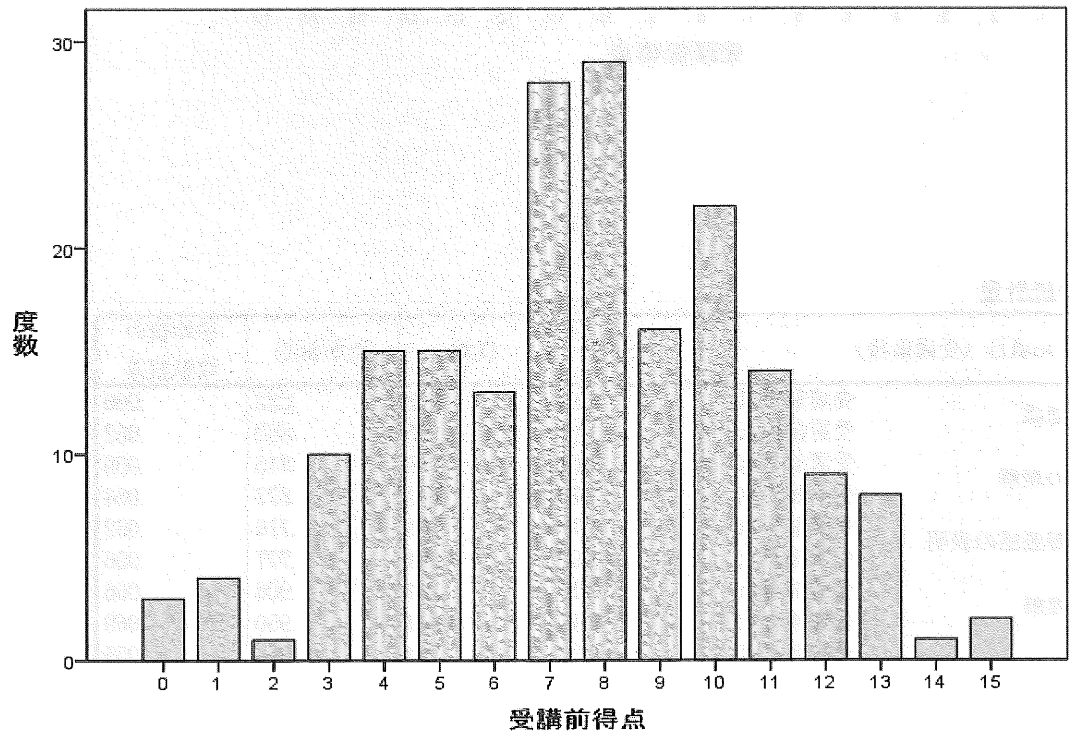
○受講後得点

合計得点	度数（人）	有効パーセント	累積パーセント
0	4	2.1	2.1
1	3	1.6	3.7
2	4	2.1	5.8
3	6	3.2	8.9
4	8	4.2	13.2
5	15	7.9	21.1

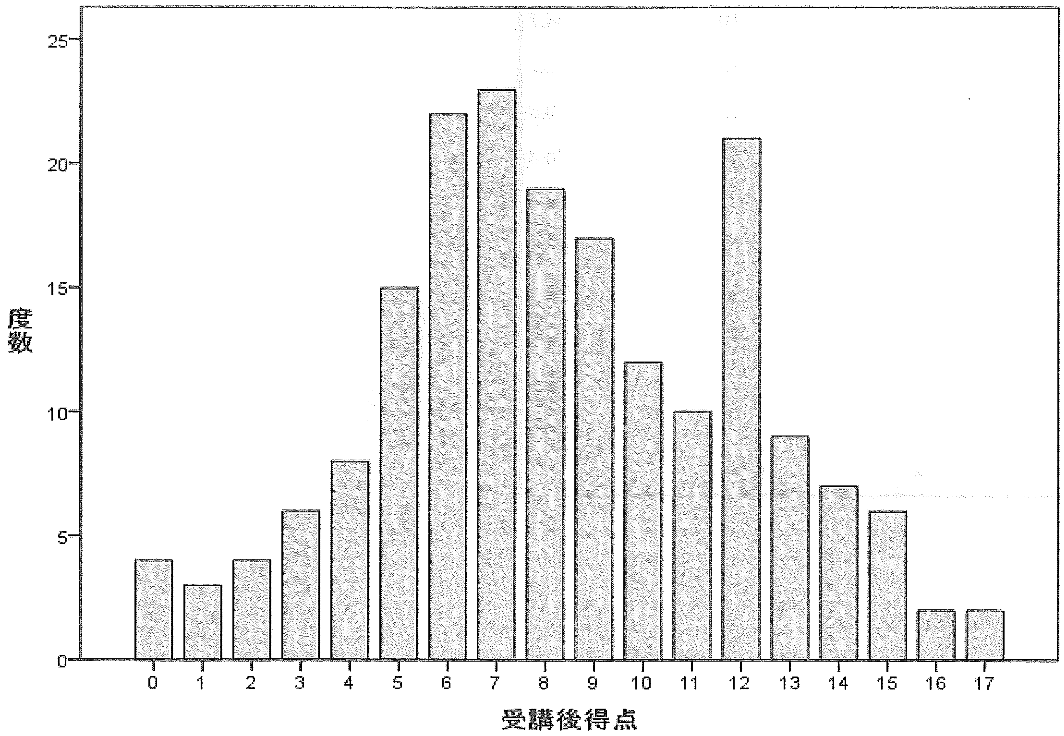
別添資料８　第二次調査における調査票３の分析結果

6	22	11.6	32.6
7	23	12.1	44.7
8	19	10.0	54.7
9	17	8.9	63.7
10	12	6.3	70.0
11	10	5.3	75.3
12	21	11.1	86.3
13	9	4.7	91.1
14	7	3.7	94.7
15	6	3.2	97.9
16	2	1.1	98.9
17	2	1.1	100.0
合計	190	100.0	

○得点分布図



別添資料8　第二次調査における調査票3の分析結果



○対応サンプルの統計量

評価の6項目（受講前後）		平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
①事件の重大性の認識	受講前得点	1.17	190	.833	.060
	受講後得点	1.27	190	.852	.062
②被害者等の実情の理解	受講前得点	1.64	190	.815	.059
	受講後得点	1.73	190	.877	.064
③責任の受容及び罪悪感の表明	受講前得点	1.79	190	.716	.052
	受講後得点	1.93	190	.777	.056
④自己の問題性の理解	受講前得点	1.10	190	.906	.066
	受講後得点	1.17	190	.950	.069
⑤具体的な謝罪・弁償の決意	受講前得点	1.31	190	.764	.055
	受講後得点	1.47	190	.871	.063
⑥再加害防止への決意	受講前得点	.64	190	.720	.052
	受講後得点	.78	190	.897	.065
6項目の合計	受講前得点	7.64	190	3.096	.225
	受講後得点	8.35	190	3.709	.269

別添資料８　第二次調査における調査票３の分析結果

○対応サンプルの相関係数

評価の6項目（受講前後）		度数	相関係数	有意確率
①事件の重大性の認識	受講前得点 & 受講後得点	190	.664	.000
②被害者等の実情の理解	受講前得点 & 受講後得点	190	.657	.000
③責任の受容及び罪悪	受講前得点 & 受講後得点	190	.707	.000
④自己の問題性の理解	受講前得点 & 受講後得点	190	.749	.000
⑤具体的な謝罪・弁償の決意	受講前得点 & 受講後得点	190	.611	.000
⑥再加害防止への決意	受講前得点 & 受講後得点	190	.689	.000
6項目の合計	受講前得点 & 受講後得点	190	.857	.000

○対応サンプルの検定

評価の6項目（受講前後）		対応サンプルの差			
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の95%信頼区間 下限
①事件の重大性の認識	受講前得点 - 受講後得点	-.095	.691	.050	-.194
②被害者等の実情の理解	受講前得点 - 受講後得点	-.089	.703	.051	-.190
③責任の受容及び罪悪	受講前得点 - 受講後得点	-.137	.575	.042	-.219
④自己の問題性の理解	受講前得点 - 受講後得点	-.068	.659	.048	-.163
⑤具体的な謝罪・弁償の決意	受講前得点 - 受講後得点	-.163	.727	.053	-.267
⑥再加害防止への決意	受講前得点 - 受講後得点	-.147	.658	.048	-.242
6項目の合計	受講前得点 - 受講後得点	-.716	1.912	.139	-.989

評価の6項目（受講前後）		差の95%信頼区間 上限	t 値	自由度	有意確率（両側）
①事件の重大性の認識	受講前得点 - 受講後得点	.004	-1.889	189	.060
②被害者等の実情の理解	受講前得点 - 受講後得点	.011	-1.754	189	.081
③責任の受容及び罪悪	受講前得点 - 受講後得点	-.055	-3.282	189	.001
④自己の問題性の理解	受講前得点 - 受講後得点	.026	-1.431	189	.154
⑤具体的な謝罪・弁償の決意	受講前得点 - 受講後得点	-.059	-3.093	189	.002
⑥再加害防止への決意	受講前得点 - 受講後得点	-.053	-3.086	189	.002
6項目の合計	受講前得点 - 受講後得点	-.442	-5.161	189	.000

付録１：「評価ツール１」

受講
前・後

整理番号

調査票１

次のページには，書きかけの文章やことばが書いてあります。(同じ言葉もたくさん並んでいます。）その文章やことばを読んで，思いついたことを書いて文章を完成させてください。

思いついたことを，そのまま自由に書いてください。どのように書いても正解や間違いはありません。また，順番にやる必要はありません。制限時間の中で，できるだけたくさんの文章を作ってください。

ただし，一度作った文章と同じ文章を作ってはいけません。

（例）
1　空は　きれいだ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（制限時間　１５分）

「始め」の合図があるまで，待ってください。

「やめ」の合図があったら，回答をやめてください。

1　被害者は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2　被害者の＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
3　被害者に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
4　被害者を＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
5　被害者から＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
6　今回の事件＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

～（以下省略：内容は，別添資料１の「調査票１」と同じ。）～

付録１：「評価ツール１」

調査票１　評価の着眼点（評価者用）

調査票１における評価の着眼点について説明する。なお，代表的な反応について例示しているが，文言が違っても趣旨が同じであれば，同様の評価や考えを適用することが可能である。

① 被害者や事件との直面化

代表的な反応は，「忘れない」，「逃げない」，「向き合う」，「目を背けてはならない」等であり，被害者や事件に真摯に向き合っている者が出すと仮定することができる。

② 自己の加害者性に関する認識

代表的な反応は，「被害者を作る」及び「被害者を出す」であり，前者については，自己の加害者性や，加害行為に係る自己の主体性に関する認識が明確化されている者が出し，後者については，同認識が明確ではない者が出すと仮定することができる。

③ 責任の受容

代表的な反応は，「全て自分の責任である」等の反応である。加害行為に対する自己の責任に係る認識を深めた者が出すと仮定することができる。なお，「被害者は悪くない」等の反応は，被害者に責任転嫁していないだけで，「運が悪かった」等の考えが背後にある可能性があるため，基本的には「責任の受容」とは見なさない。

④ 罪悪感の明確化

代表的な反応は，「被害者に心から謝罪したい」等であり，「謝罪」という文言を明確に用いるなど，広く謝罪と分類できる反応の中でも，罪悪感が明確化されているものがこれに当たる。罪悪感が明確化されている者が出す反応と仮定することができる。

「すみません」「迷惑を掛けた」等の反応については，罪悪感や責任の認識等が不明確な者が出す反応と仮定されるため，「マイナス評価」に値する反応としてチェックする。

⑤ 継続性

代表的な反応は，「一生，謝罪をし続けていく」等であり，謝罪等の取組を継続していく旨の内容の反応が該当する。事件の重大性や被害者の実状，自己の責任の重さ等への認識や，罪悪感等に深まりが生じた者が出す反応と仮定される。「被害者遺族は，家族を亡くした悲しみを一生感じ続けていく」等，主語が被害者の場合は，被害者の実状に対する理解の深まりを評価する指標とすることが適当である。

⑥ 「今回の事件」に関する反応

実証的な根拠に基づく評価の着眼点の抽出については，今後のデータ蓄積を待つ必要があるが，現時点では「被害者は」「被害者の」「被害者に」「被害者を」「被害者から」においては出にくい反応，すなわち，事件に関する認識（いわゆる「言い訳」的内容を含む。）や事件につながった自己の問題点に関する記載に注目することが適当である。

ここで示した内容は，あくまで「着眼点」であり，これらに該当する／しないことにより，反省している／不十分であるといった判断を即座にできるものではなく，他のツールや，指導・面接等から得られる情報を勘案して，臨床的な判断を行うことが望まれる。

付録２：「評価ツール２」

受講 前・後

整理番号

調査票２

これから，あなたに質問に答えていただきます。

質問の内容は，今回のあなたの事件や，その事件の被害者やその家族の方々などについてです。

質問に対する回答は，あなたにとって当てはまるものを選ぶ形式です。あなたにとって最も当てはまるものに，○をつけてください。

あなたが答えたアンケートの内容を，あなたに対する教育の参考にすることはありますが，あなたの答えを他の受刑者に知らせるなど，あなたにとって不利益なことをすることはありません。また，正解や間違いはありません。あなたの思ったとおりに答えてください。

～（以下省略）～

（内容は，別添資料４の「調査票２」における以下の15項目を削除したものと同じ。）

削除項目：1-2，1-4，1-7，1-9，1-12，1-14，1-17，1-19，1-22，1-24，1-27，1-28，1-30，1-31，1-32.

付録２：「評価ツール２」

調査票２　評価尺度の説明（評価者用）

このアンケートは，以下の４領域について受講者の変化を測定することを目的としています。プログラム受講前後における各領域の得点及び合計点を算出し，受講者の評価や指導の参考にして下さい。

なお，逆転項目については，（1点→5点，2点→4点，4点→2点，5点→1点）に得点を変換した上で，計算して下さい。

1　犯罪の中和化尺度…犯した罪に関する合理化・正当化の度合い

① **中和１：被害者及び責任の否定**…被害者の存在や罪を犯した自分の責任を否定する傾向

（7項目：1-1，1-6，1-11，1-16，1-21，1-26，1-29）

② **中和２：非難者への非難**…罪を犯した自分を非難する人々は間違っていると考える傾向

（5項目：1-3，1-8，1-13，1-18，1-23）

③ **中和３：より高度の忠誠への訴え**…大切な人への忠誠のために罪を犯したと考える傾向

（5項目：1-5，1-10，1-15，1-20（逆転項目），1-25）

2　罪悪感の尺度…被害者に対する申し訳ない気持ちに思い悩む傾向

（7項目：2-1～2-7）

3　謝罪の動機尺度…謝罪や弁償をする動機の種類及びその度合い

① **道具的謝罪**…謝罪や弁償をすることを他の目的を達成するための手段ととらえる傾向

（6項目：3-1，3-3，3-5，3-7，3-9，3-10）

② **誠実な謝罪**…心の底から申し訳ないと思い謝罪や弁償をしようとする傾向

（4項目：3-2，3-4，3-6，3-8）

4　謝罪の実施意思尺度…謝罪や弁償を続けていく覚悟や自信の度合い

（11項目：4-1～4-11）

付録３：「評価ツール３」

受講 前・後	整理番号

調査票３

これから，あなたに想像上の手紙のやり取りをしていただきます。これは，あなた自身が自分と誰か別の人の立場になって，「自分から相手へ」，「相手から自分へ」というように手紙を書くものです。

今回は，あなたの事件の被害者の方又は被害者の家族（遺族）の方と想像上の手紙のやり取りをしていただきます。

○ 手紙を，被害者の方や被害者の家族（遺族）の方に実際に見せることはありません。

○ あなたが書いた手紙の内容を，あなたに対する教育の参考にすることはありますが，手紙の内容を他の受刑者に知らせるなど，あなたにとって不利益なことをすることはありません。

あなたが書こうと思ったことを自由に書いてください。

～（以下省略：内容は，別添資料４の「調査票３」と同じ。）～

付録３：「評価ツール３」

ロールレタリング評価シート（評価者用）　　調査票3（ロールレタリング）の実施結果について，本シートを用いて評価して下さい。

	① 事件の重大性の認識	② 被害者等の実情の理解	③ 責任の受容及び罪悪感の表明	④ 自己の問題性の理解	⑤ 具体的な謝罪・弁償の決意	⑥ 再加害防止への決意
3	□ 十分認識している	□ 十分理解している	□ 十分受容や表明をしている	□ 十分理解している。	□ 決意が十分みられる	□ 決意が十分みられる
2	□ 認識している	□ 理解している	□ 受容や表明をしている	□ 理解している	□ 決意がみられる	□ 決意がみられる
1	□ 認識が不十分である	□ 理解が不十分である	□ 受容や表明が不十分である	□ 理解が不十分である	□ 決意が不十分である	□ 決意が不十分である
0	□ 認識していない	□ 理解していない	□ 受容や表明をしていない	□ 理解していない	□ 決意がみられない	□ 決意がみられない
小計	点	点	点	点	点	点

合計得点	点	総合評価	A・B・C・D・E

その他特記事項	

総合評価は，合計得点により「**A：18-16点　B：15-12点　C：11-8点　D：7-4点　E：3-0点**」と評価する。
ただし，C評価以上に該当していても，④～⑥以外の項目で0点の項目が一つでもあった場合はD評価とする（④～⑥についても1点以上であることが望ましいが，事件の性質や文章の構成によっては触れていないことだけをもって必ずしも減点要素とはできないため）。